

これからの学校のあり方についてのアンケート 調査結果(詳細版)

2023年(令和5年)●月

目次

1. 調査概要
(1)実施者
(2)調査の目的
(3)調査方法
(4)対象者数
2. 回答者の内訳	
(1)未就学児保護者
(2)小・中学校保護者
(3)教職員
3. 共通質問	
(1)設問:これからの学校の規模や配置について検討していくうえで、大切だと思うこと
(2)設問:小学校 理想の学級数
(3)設問:中学校 理想の学級数
(4)設問:現在の通学時間
(5)設問:許容時間
4. 教職員のみ対象とした設問	
(1)設問:現在所属の学校規模
(2)設問:過大規模解消のための手法
(3)設問:小規模解消のための手法
(4)設問 適正化への取組で重視すべき点
5. 自由記述回答(抜粋)	
(1)設問:これからの学校の規模や配置について検討していくうえで、大切だと思うことに寄せられた意見
(2)設問:現在所属の学校規模に寄せられた意見
(3)設問:理想の学級数に寄せられた意見

6. 考察

- (1)これからの学校の規模や配置について検討していくうえで、大切だと思うことについて.....
- (2)理想の学級数について.....
- (3)通学時間について.....

(参考)

これからの学校のあり方についてのアンケート調査のご協力の依頼文・質問紙

未就学児保護者向け依頼文・質問紙.....

小・中学校保護者向け依頼文・質問紙.....

小・中学校教職員向け依頼文・質問紙.....

1. 調査の概要

(1)実施者

藤沢市教育委員会 教育総務課

(2)調査の目的

これからの藤沢市立小中学校の学校施設の適正規模・適正配置についての実施計画を策定するにあたり、保護者及び教職員の意識を把握すること。

(3)調査方法

属性	調査対象	調査方法	調査実施期間
保護者 (未就学児)	藤沢市立保育園及び 藤沢市私立幼稚園協会に加盟する 幼稚園に通う未就学児の保護者	Googleアンケート フォーム または紙面	2022年(令和4年) 9月1日から 9月16日まで
保護者 (小・中学校)	藤沢市立小中学校に通う児童生徒の 保護者		
教職員	藤沢市立小中学校の教職員	Googleアンケート フォーム	

(4)対象者数

属性	対象者数	回答者数	回答率
保護者 (未就学児)	6,410	1,879	29.31%
保護者 (小・中学校)	27,331	7,604	27.82%
教職員	1,964	607	30.91%

2. 回答者の内訳

(1) 未就学児保護者

① 居住の地区

地区	回答者数
01片瀬地区	32
02鶴沼地区	245
03辻堂地区	234
04村岡地区	190
05藤沢地区	146
06明治地区	211
07善行地区	112
08湘南大庭地区	96
09六会地区	88
10湘南台地区	130
11遠藤地区	162
12長後地区	101
13御所見地区	30
不明	102
計	1,879

(2)小・中学校保護者

①お子さんの学年

学年	該当者数
小1	1,198
小2	1,082
小3	1,051
小4	1,067
小5	998
小6	918
中1	938
中2	805
中3	842
計	8,899

※複数学年にきょうだいがいる場合は、それぞれの学年でカウントしているため、総計は回答者数を上回る。

②通学している学校(小学校)

地区	学校名	回答者数	地区合計
01片瀬地区	片瀬小学校	151	151
02鶴沼地区	鶴沼小学校	252	660
	鶴南小学校	113	
	鶴洋小学校	295	
03辻堂地区	高砂小学校	175	717
	辻堂小学校	265	
	八松小学校	187	
	浜見小学校	90	
04村岡地区	高谷小学校	147	428
	新林小学校	161	
	村岡小学校	120	
05藤沢地区	大鋸小学校	131	711
	大清水小学校	55	
	大道小学校	148	
	藤沢小学校	162	
	本町小学校	215	
06明治地区	羽鳥小学校	181	371
	明治小学校	190	
07善行地区	善行小学校	65	274
	大越小学校	101	
	俣野小学校	108	
08湘南大庭地区	駒寄小学校	95	363
	小糸小学校	54	
	大庭小学校	79	
	滝の沢小学校	135	
09六会地区	亀井野小学校	110	462
	石川小学校	87	
	天神小学校	65	
	六会小学校	200	
10湘南台地区	湘南台小学校	137	137
11遠藤地区	秋葉台小学校	287	287
12長後地区	長後小学校	262	490
	富士見台小学校	228	
13御所見地区	御所見小学校	57	116
	中里小学校	59	
計		5,167	5,167

③通学している学校(中学校)

地区	学校名	回答者数	地区合計
01片瀬地区	片瀬中学校	60	60
02鶴沼地区	鶴沼中学校	451	451
03辻堂地区	高浜中学校	100	230
	湘洋中学校	130	
04村岡地区	村岡中学校	108	301
	藤ヶ岡中学校	193	
05藤沢地区	大清水中学校	51	248
	第一中学校	197	
06明治地区	羽鳥中学校	60	170
	明治中学校	110	
07善行地区	善行中学校	50	50
08湘南大庭地区	大庭中学校	83	202
	滝の沢中学校	119	
09六会地区	六会中学校	107	107
10湘南台地区	湘南台中学校	116	116
11遠藤地区	秋葉台中学校	164	164
12長後地区	高倉中学校	63	242
	長後中学校	179	
13御所見地区	御所見中学校	96	96
計		2,437	2,437

(3)教職員

①所属別

所属	回答者数
(小)教職員	391
(中)教職員	216
計	607

②所属の学校の所在地区

小学校教職員

地区	回答者数
01片瀬地区	17
02鶴沼地区	38
03辻堂地区	70
04村岡地区	23
05藤沢地区	82
06明治地区	2
07善行地区	30
08湘南大庭地区	23
09六会地区	42
10湘南台地区	10
11遠藤地区	10
12長後地区	26
13御所見地区	18
総計	391

中学校教職員

地区	回答者数
01片瀬地区	13
02鶴沼地区	8
03辻堂地区	19
04村岡地区	24
05藤沢地区	34
06明治地区	17
07善行地区	1
08湘南大庭地区	26
09六会地区	25
10湘南台地区	14
11遠藤地区	16
12長後地区	5
13御所見地区	14
総計	216

③ 所属の学校規模

小学校教職員

規模	回答者数
小規模	13
適正規模	253
大規模	55
過大規模	70
総計	391

中学校教職員

規模	回答者数
小規模	35
適正規模	181
総計	216

3. 共通設問

(1)設問:「藤沢市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」にそって、これからの学校の規模や配置について検討していくうえで、大切だと思うことはなんですか？(未就学児・小・中学校保護者対象)
選択肢「選択肢以外で大切だと思うこと(自由記述)」で回答いただいた内容は「5.自由記述回答」に記載しています。

①属性別(未就学児保護者)

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

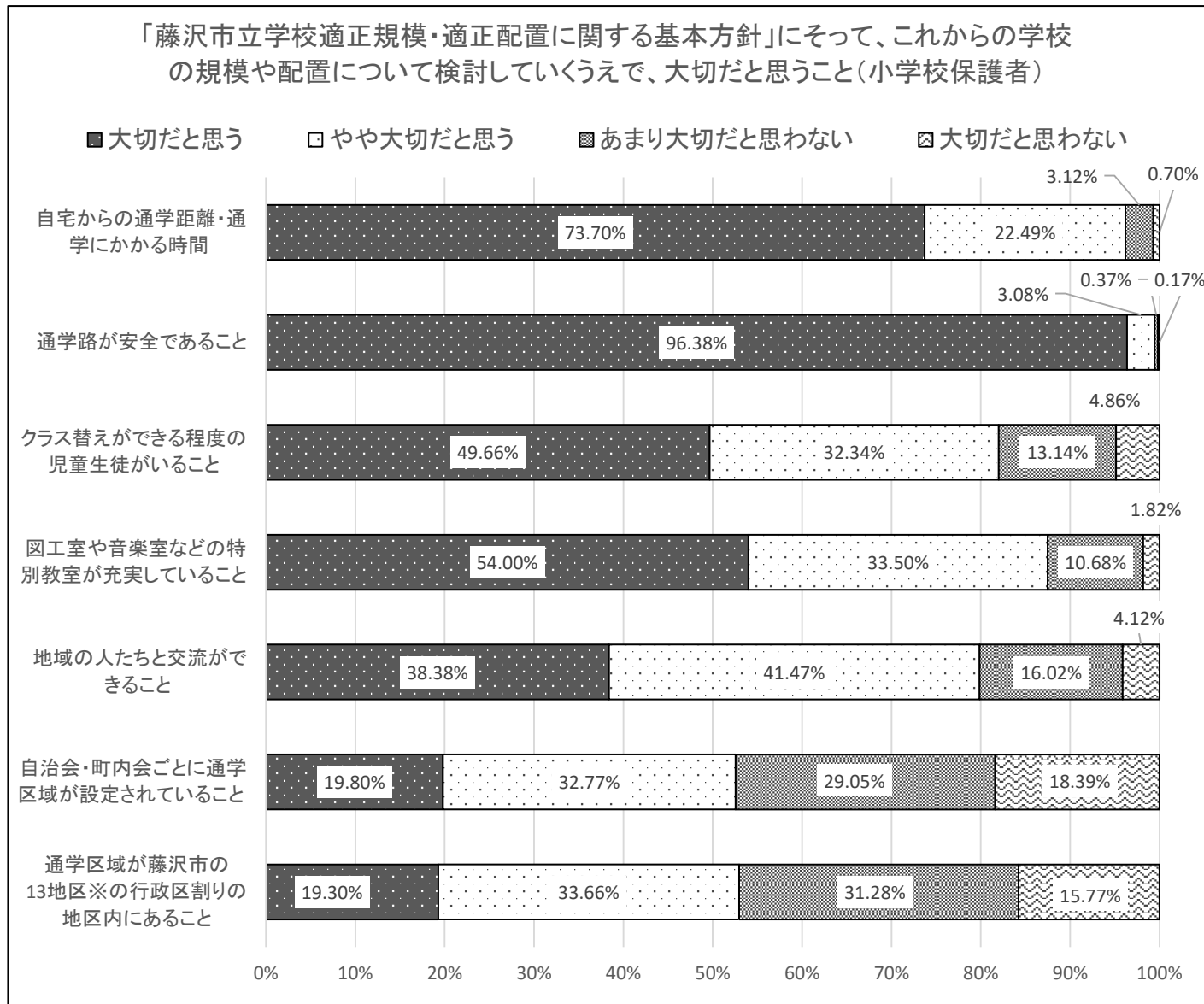
グラフ

表

グラフ

表

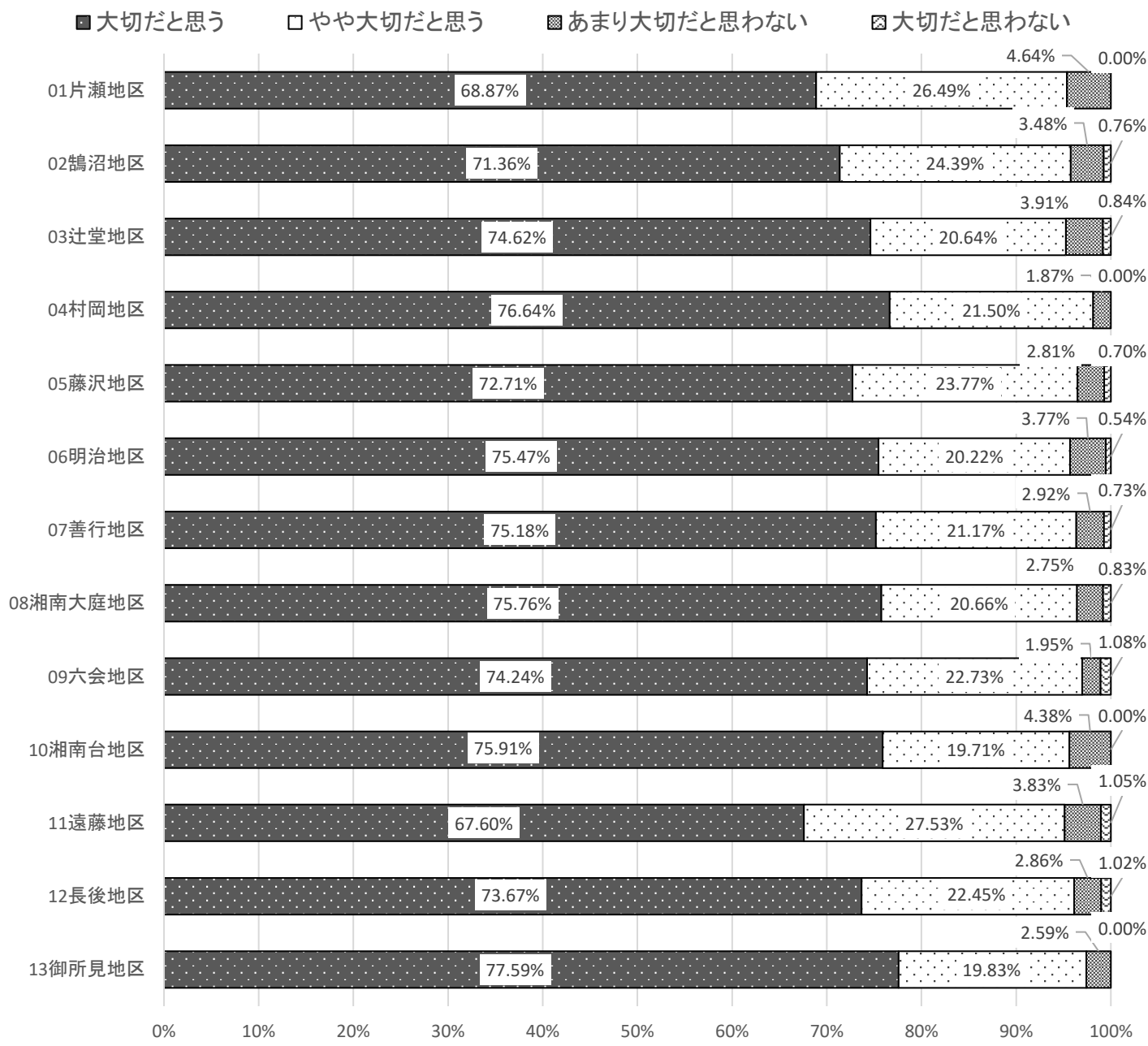
③属性別(小学校保護者)



	大切だと思う	やや大切だと思う	あまり大切だと思わない	大切だと思わない	計
自宅からの通学距離・通学にかかる時間	3,808	1,162	161	36	5,167
通学路が安全であること	4,980	159	19	9	5,167
クラス替えができる程度の児童生徒がいること	2,566	1,671	679	251	5,167
図工室や音楽室などの特別教室が充実していること	2,790	1,731	552	94	5,167
地域の人たちと交流ができること	1,983	2,143	828	213	5,167
自治会・町内会ごとに通学区域が設定されていること	1,023	1,693	1,501	950	5,167
通学区域が藤沢市の13地区※の行政区割りの地区内にあること※	997	1,739	1,616	815	5,167

④-1 地域別(小学校保護者)

自宅からの通学距離・通学にかかる時間

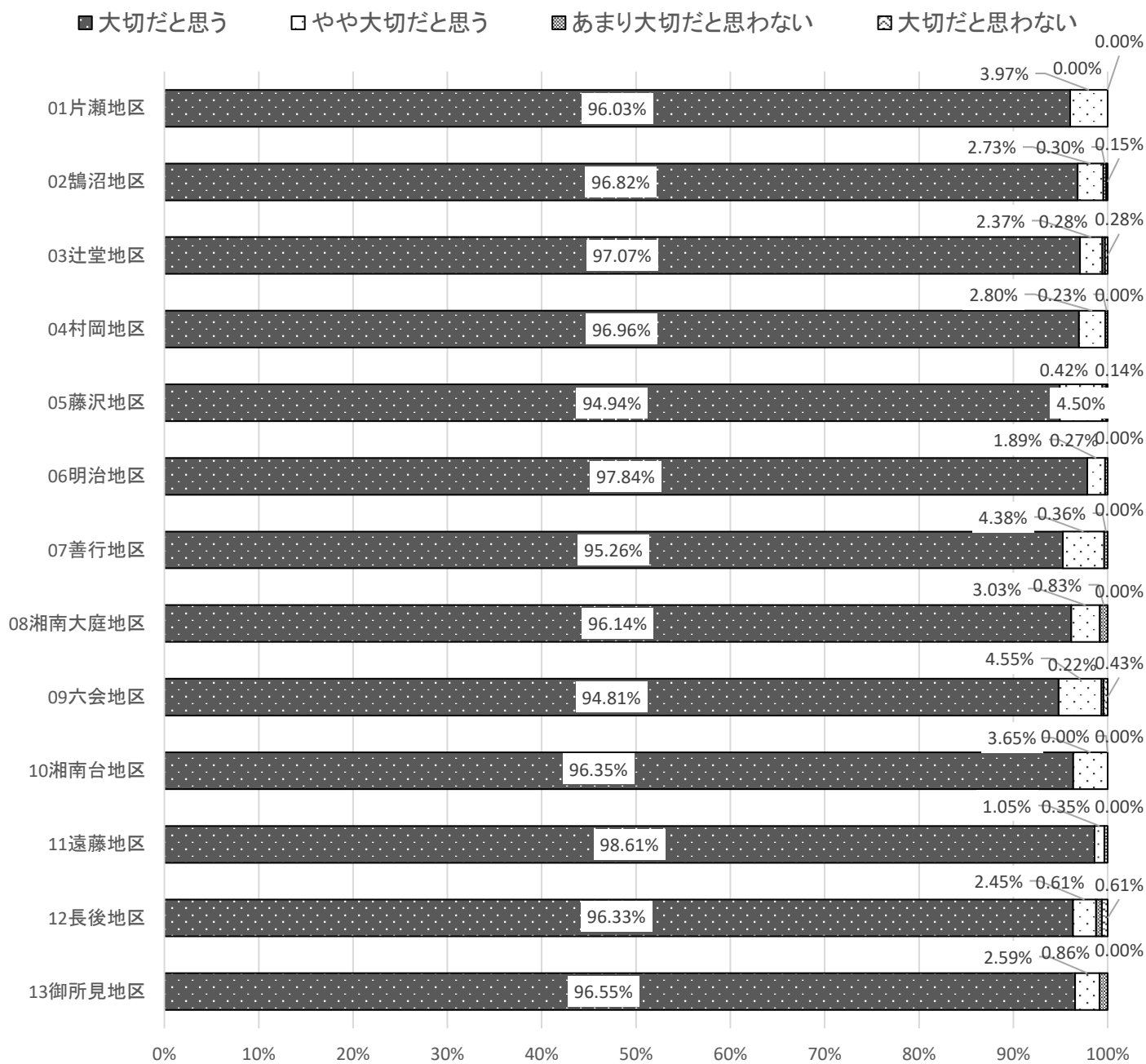


データの個数 / 自宅からの通学距離・通学にかかる時間

	大切だと思う	やや大切だと思う	あまり大切だと思わない	大切だと思わない	計
01片瀬地区	104	40	7	0	151
02鶴沼地区	471	161	23	5	660
03辻堂地区	535	148	28	6	717
04村岡地区	328	92	8	0	428
05藤沢地区	517	169	20	5	711
06明治地区	280	75	14	2	371
07善行地区	206	58	8	2	274
08湘南大庭地区	275	75	10	3	363
09六会地区	343	105	9	5	462
10湘南台地区	104	27	6	0	137
11遠藤地区	194	79	11	3	287
12長後地区	361	110	14	5	490
13御所見地区	90	23	3	0	116
計	3,808	1,162	161	36	5,167

④-2 地域別(小学校保護者)

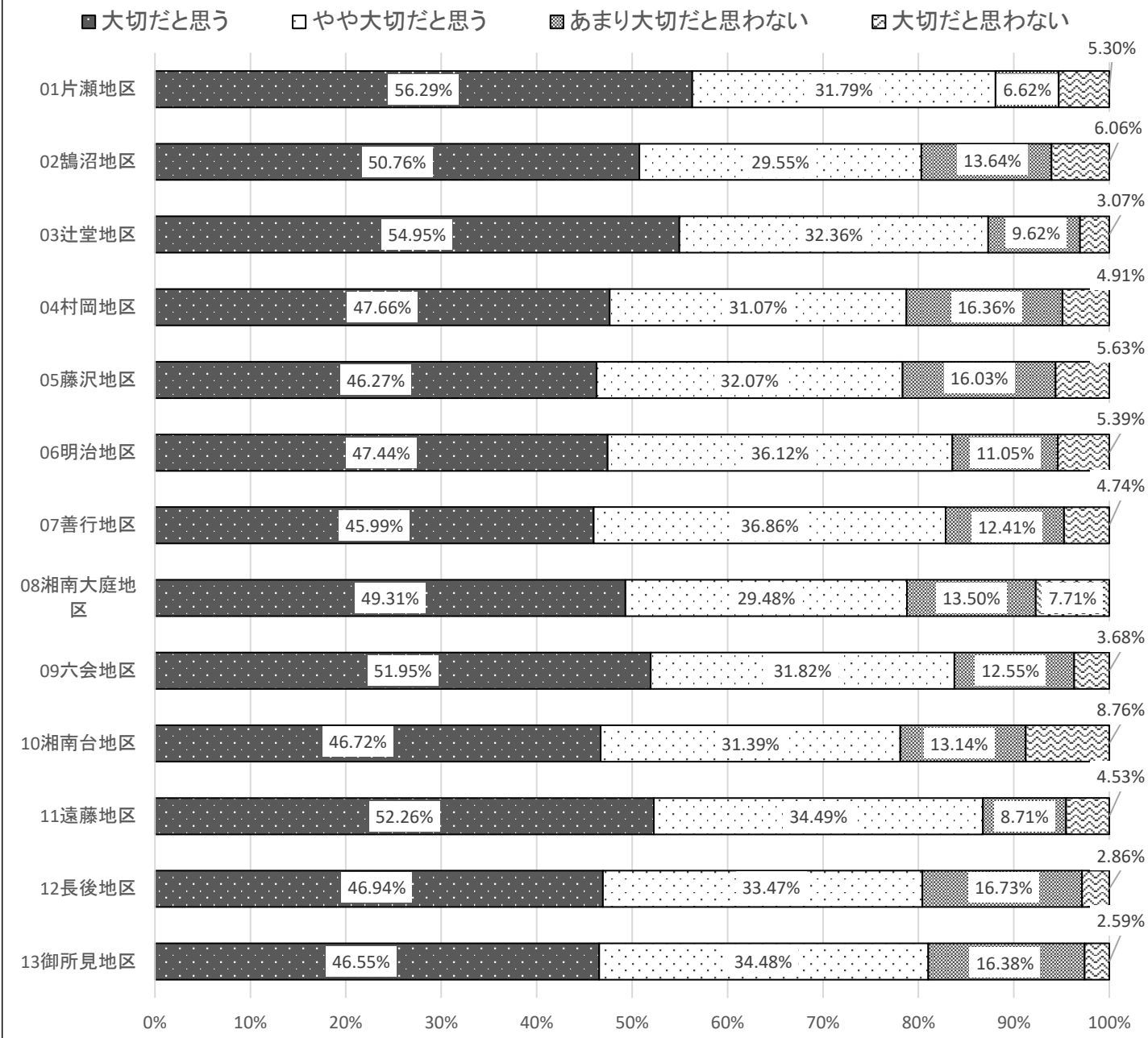
通学路が安全であること



	データの個数 / 自宅からの通学距離・通学にかかる時間				計
	大切だと思う	やや大切だと思う	あまり大切だと思わない	大切だと思わない	
01片瀬地区	145	6	0	0	151
02鶴沼地区	639	18	2	1	660
03辻堂地区	696	17	2	2	717
04村岡地区	415	12	1	0	428
05藤沢地区	675	32	3	1	711
06明治地区	363	7	1	0	371
07善行地区	261	12	1	0	274
08湘南大庭地区	349	11	3	0	363
09六会地区	438	21	1	2	462
10湘南台地区	132	5	0	0	137
11遠藤地区	283	3	1	0	287
12長後地区	472	12	3	3	490
13御所見地区	112	3	1	0	116
計	4,980	19	159	9	5,167

④-3 地域別(小学校保護者)

クラス替えができる程度の児童生徒がいること



データの個数 / 自宅からの通学距離・通学にかかる時間

	大切だと思う	やや大切だと思う	あまり大切だと思わない	大切だと思わない	計
01片瀬地区	85	48	10	8	151
02鶴沼地区	335	195	90	40	660
03辻堂地区	394	232	69	22	717
04村岡地区	204	133	70	21	428
05藤沢地区	329	228	114	40	711
06明治地区	176	134	41	20	371
07善行地区	126	101	34	13	274
08湘南大庭地区	179	107	49	28	363
09六会地区	240	147	58	17	462
10湘南台地区	64	43	18	12	137
11遠藤地区	150	99	25	13	287
12長後地区	230	164	82	14	490
13御所見地区	54	40	19	3	116
計	2,566	1,671	679	251	5,167

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

表

グラフ

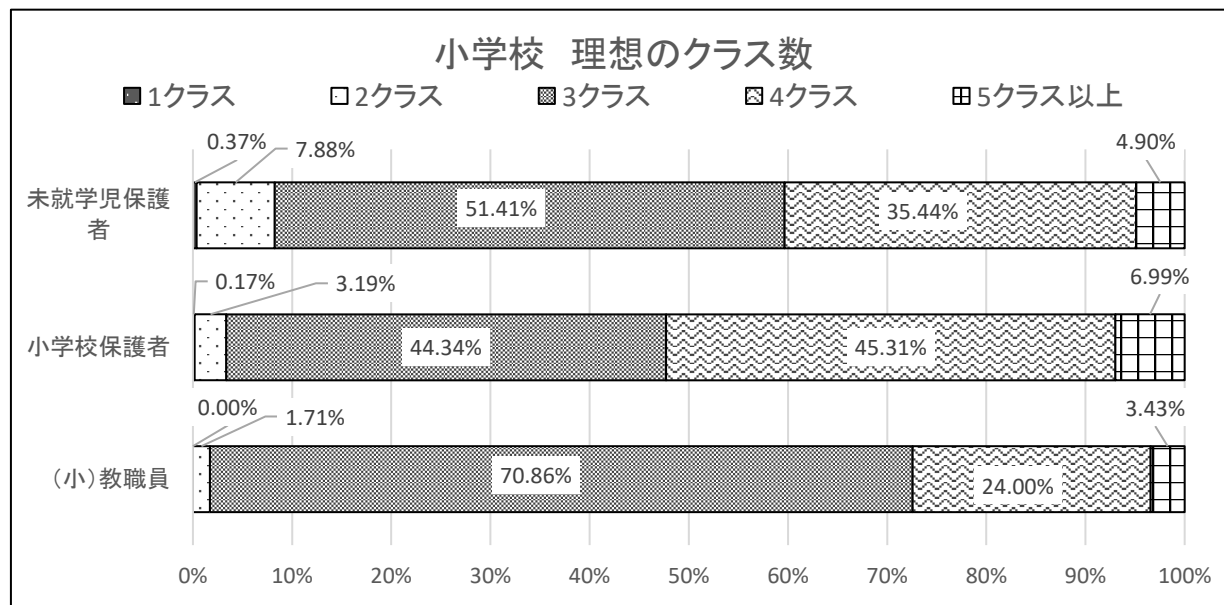
表

グラフ

表

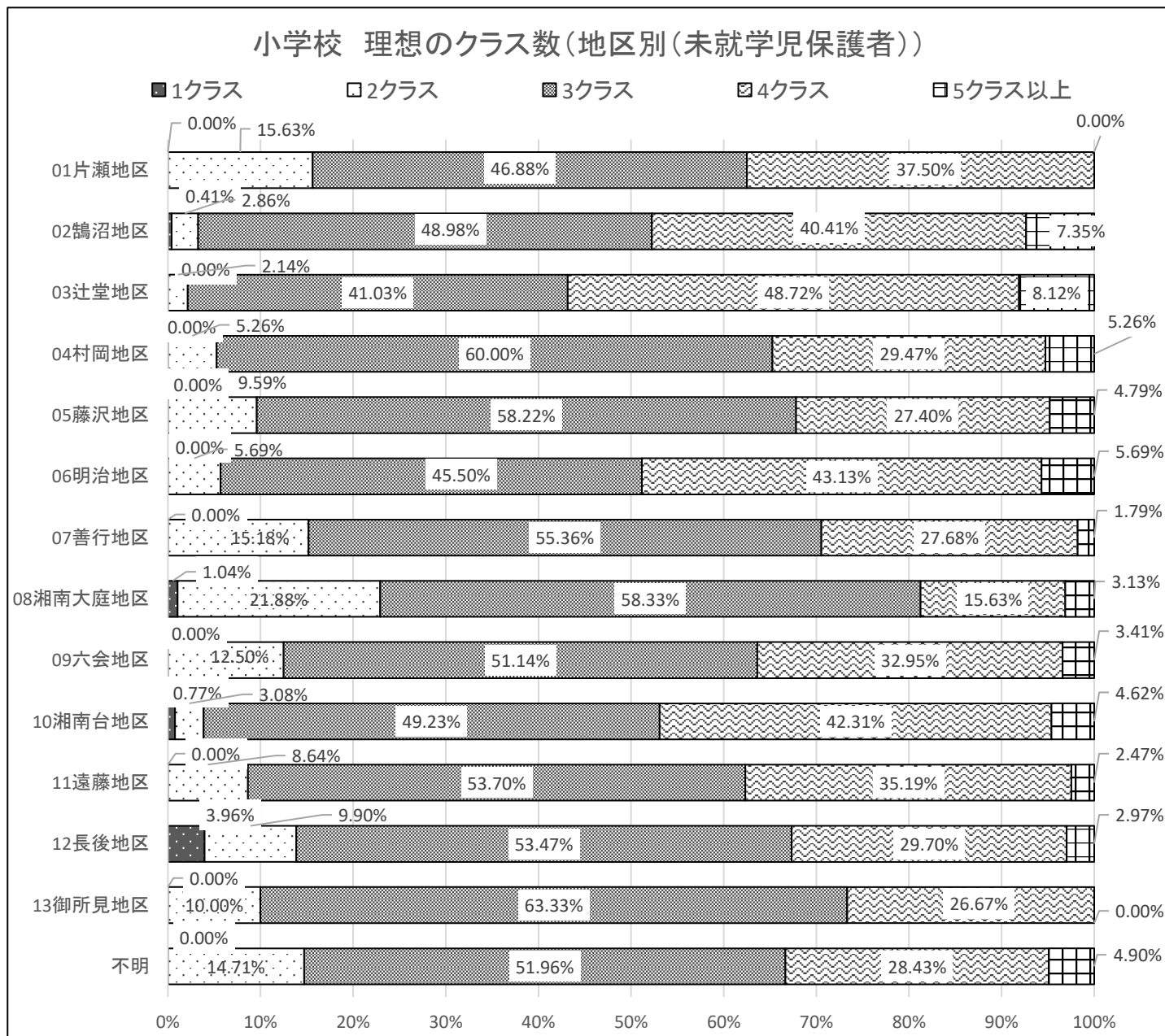
(2)設問：あなたは小学校は1学年あたり、何クラスが理想だと思いますか？（未就学児・小学校保護者、小学校教職員対象）

①属性別（未就学児・小学校保護者、小学校教職員）



	1クラス	2クラス	3クラス	4クラス	5クラス以上	計
未就学児保護者	7	148	966	666	92	1,879
小学校保護者	9	165	2,291	2,341	361	5,167
(小)教職員	0	16	280	88	7	391
計	16	329	3,537	3,095	460	7,437

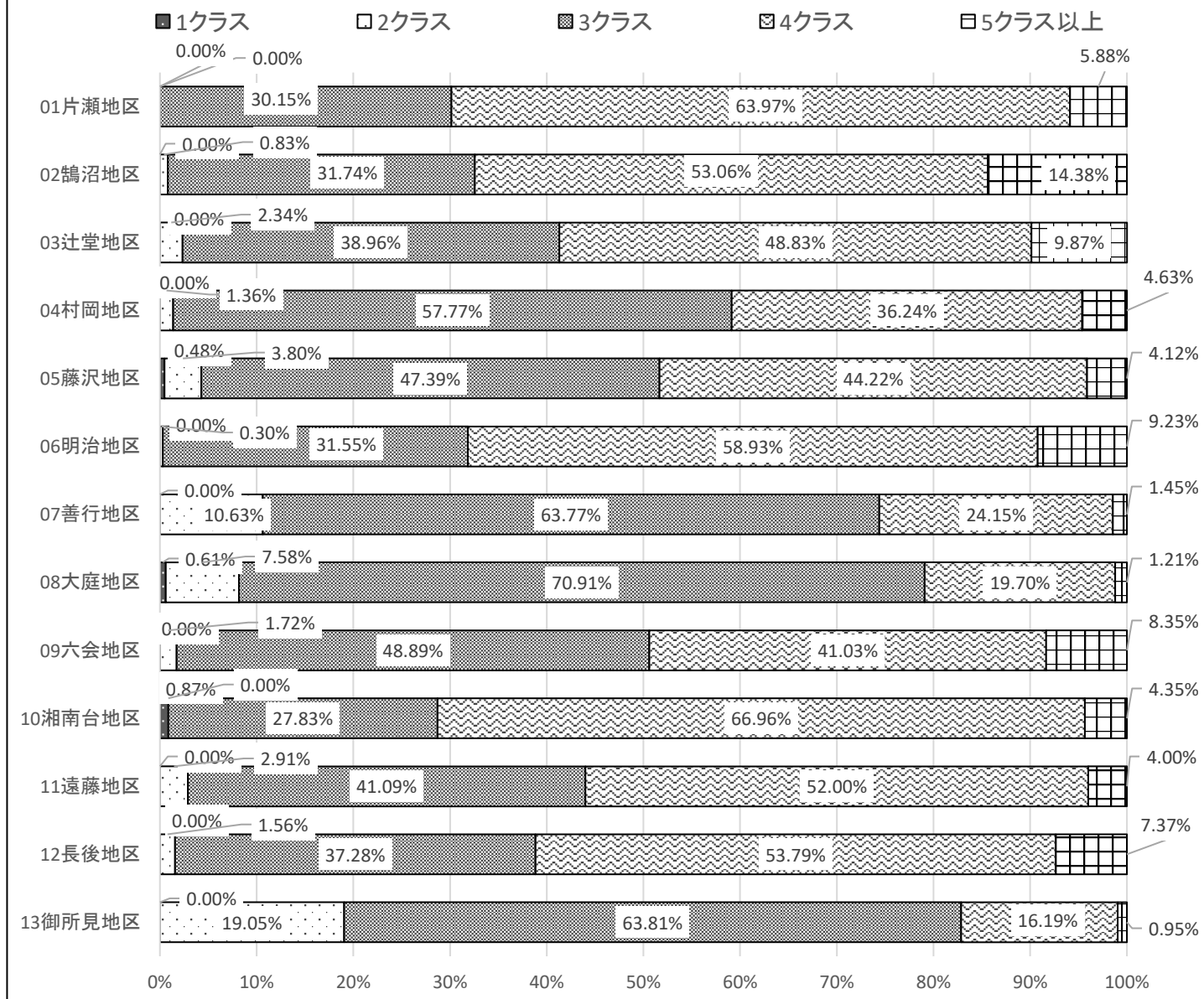
②地区別(未就学児保護者)



	1クラス	2クラス	3クラス	4クラス	5クラス以上	計
01片瀬地区	0	5	15	12	0	32
02鶴沼地区	1	7	120	99	18	245
03辻堂地区	0	5	96	114	19	234
04村岡地区	0	10	114	56	10	190
05藤沢地区	0	14	85	40	7	146
06明治地区	0	12	96	91	12	211
07善行地区	0	17	62	31	2	112
08湘南大庭地区	1	21	56	15	3	96
09六会地区	0	11	45	29	3	88
10湘南台地区	1	4	64	55	6	130
11遠藤地区	0	14	87	57	4	162
12長後地区	4	10	54	30	3	101
13御所見地区	0	3	19	8	0	30
不明	0	15	53	29	5	102
計	7	148	966	666	92	1,879

③地区別(小学校保護者)

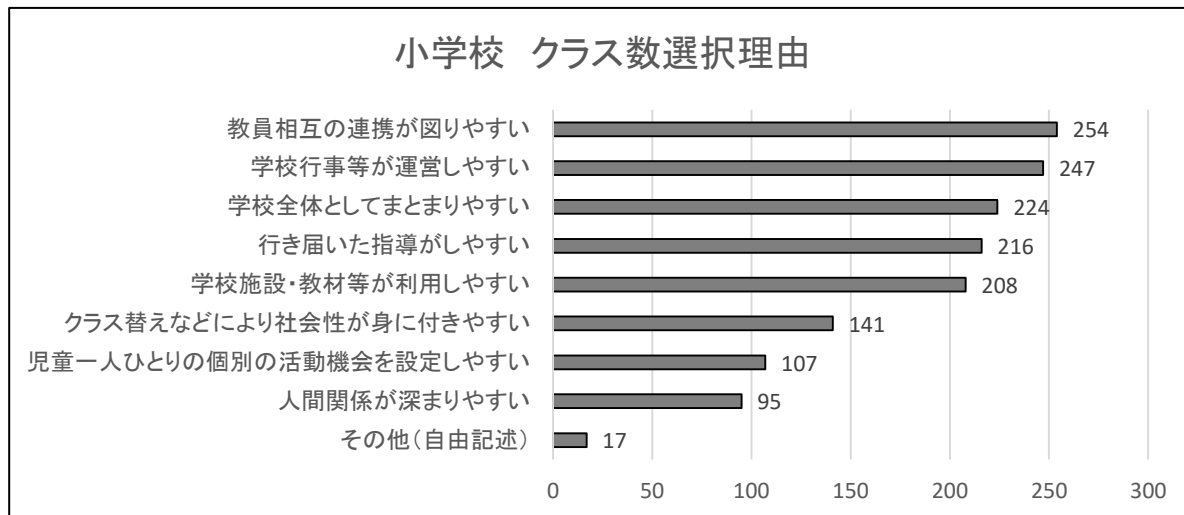
小学校 理想のクラス数(地区別(小学校保護者))



	1クラス	2クラス	3クラス	4クラス	5クラス以上	計
01片瀬地区	0	0	46	95	10	151
02鶴沼地区	0	5	204	353	98	660
03辻堂地区	0	16	269	367	65	717
04村岡地区	0	5	253	151	19	428
05藤沢地区	3	26	335	317	30	711
06明治地区	1	1	113	221	35	371
07善行地区	1	39	171	59	4	274
08湘南大庭地区	2	26	254	77	4	363
09六会地区	0	8	225	186	43	462
10湘南台地区	1	1	40	89	6	137
11遠藤地区	0	8	118	150	11	287
12長後地区	1	7	188	259	35	490
13御所見地区	0	23	75	17	1	116
計	9	165	2,291	2,341	361	5,167

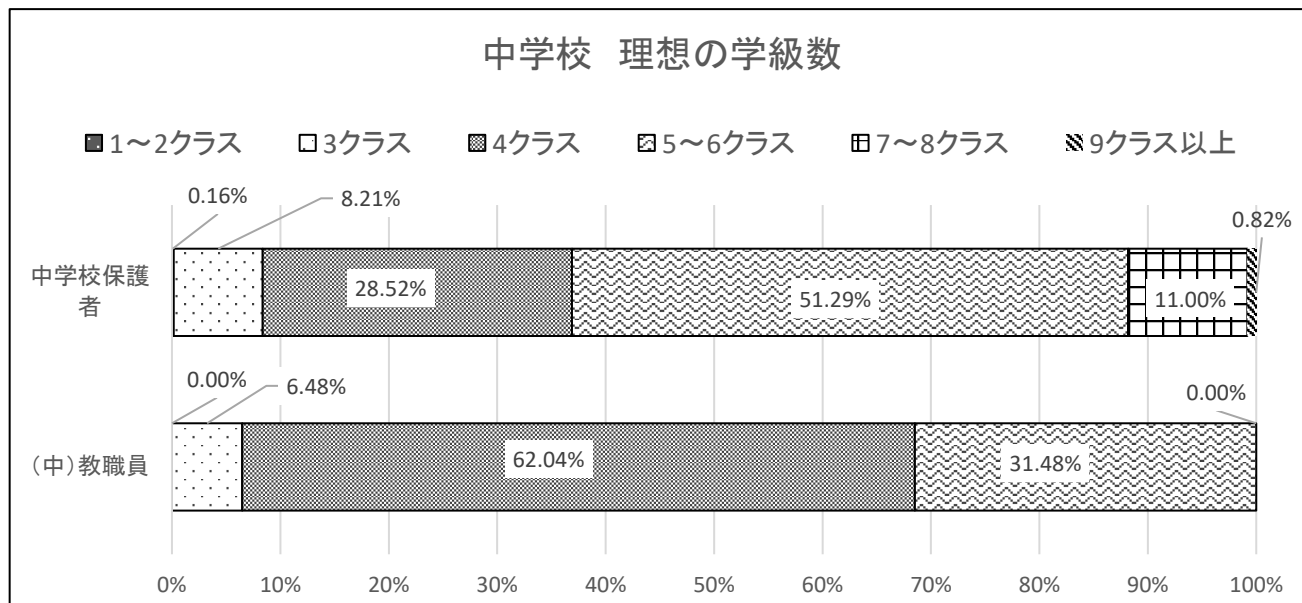
④選択理由(小学校教職員対象)

選択肢「その他(自由記述)」で回答いただいた内容は、「5. 自由記述回答」に記載しています。



(3)設問： あなたは中学校は1学年あたり、何クラスが理想だと思いますか？（中学校保護者、中学校教職員対象）

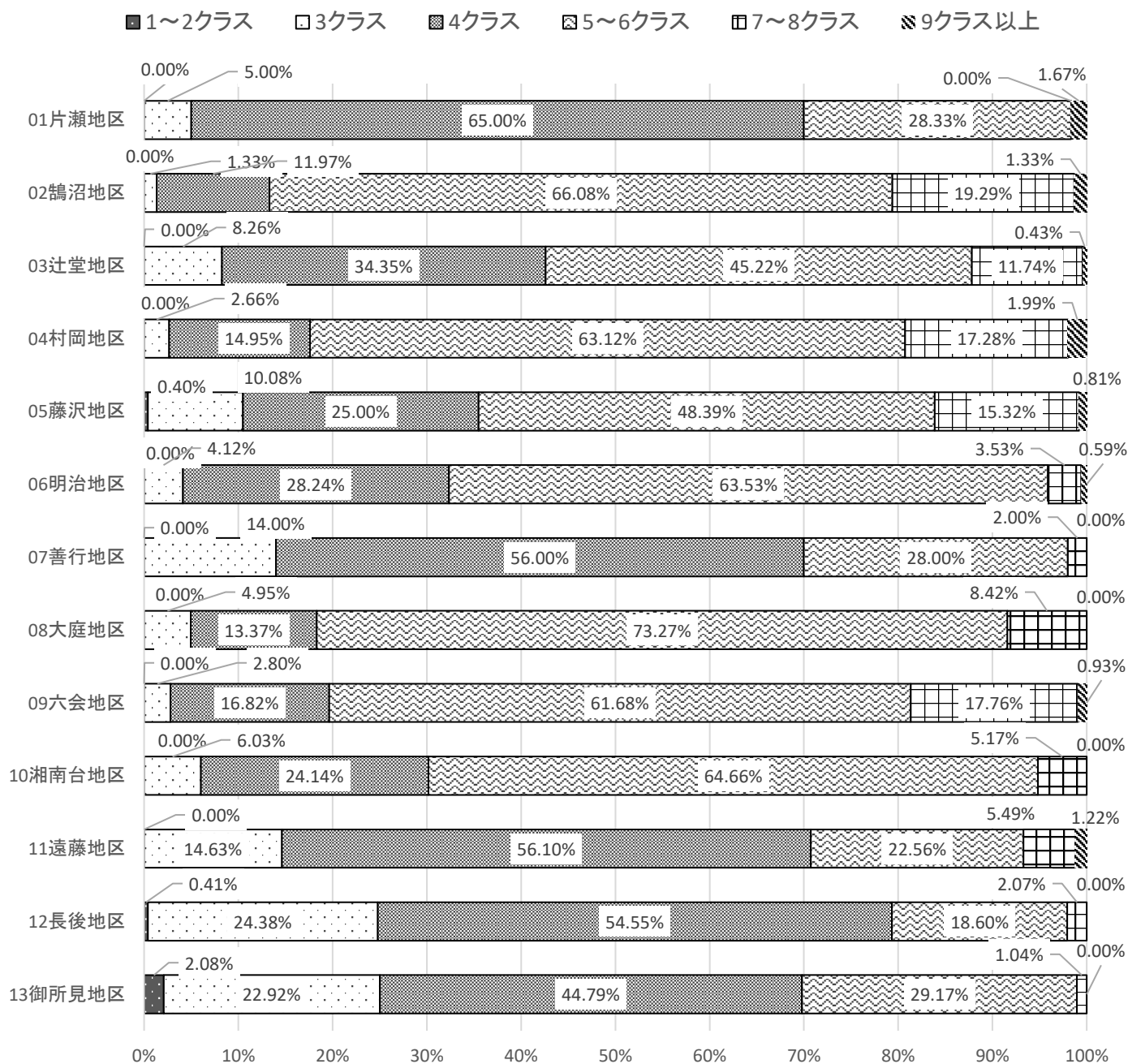
①属性別（中学校保護者、中学校教職員対象）



	1～2クラス	3クラス	4クラス	5～6クラス	7～8クラス	9クラス以上	計
中学校保護者	4	200	695	1,250	268	20	2,437
(中)教職員	0	14	134	68	0	0	216
計	4	214	829	1,318	268	20	2,653

②地区別(中学校保護者)

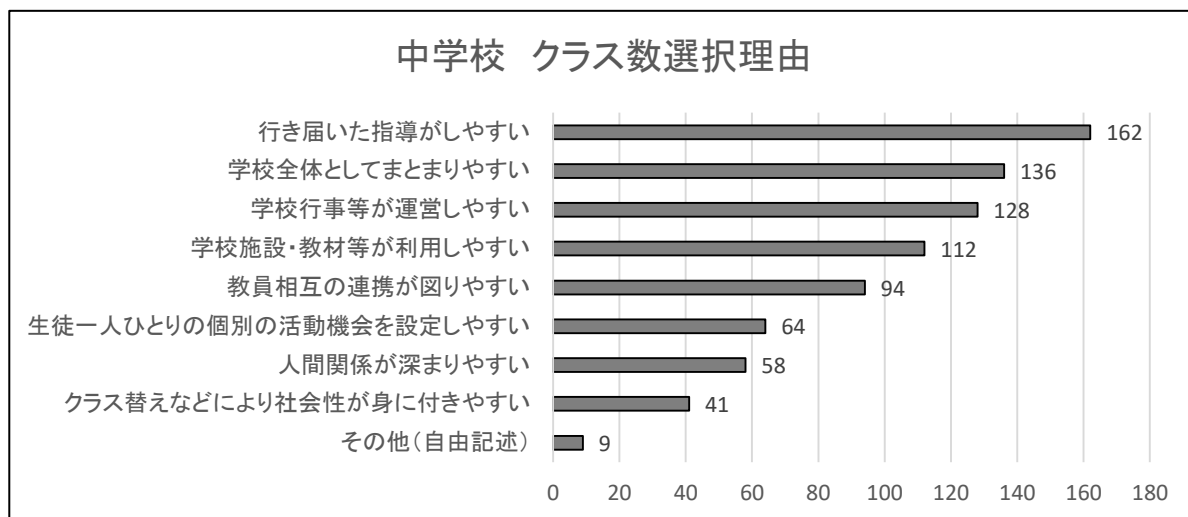
中学校 理想の学級数(地区別(中学校保護者))



	1~2クラス	3クラス	4クラス	5~6クラス	7~8クラス	9クラス以上	計
01片瀬地区	0	3	39	17	0	1	60
02鶴沼地区	0	6	54	298	87	6	451
03辻堂地区	0	19	79	104	27	1	230
04村岡地区	0	8	45	190	52	6	301
05藤沢地区	1	25	62	120	38	2	248
06明治地区	0	7	48	108	6	1	170
07善行地区	0	7	28	14	1	0	50
08大庭地区	0	10	27	148	17	0	202
09六会地区	0	3	18	66	19	1	107
10湘南台地区	0	7	28	75	6	0	116
11遠藤地区	0	24	92	37	9	2	164
12長後地区	1	59	132	45	5	0	242
13御所見地区	2	22	43	28	1	0	96
計	4	200	695	1,250	268	20	2,437

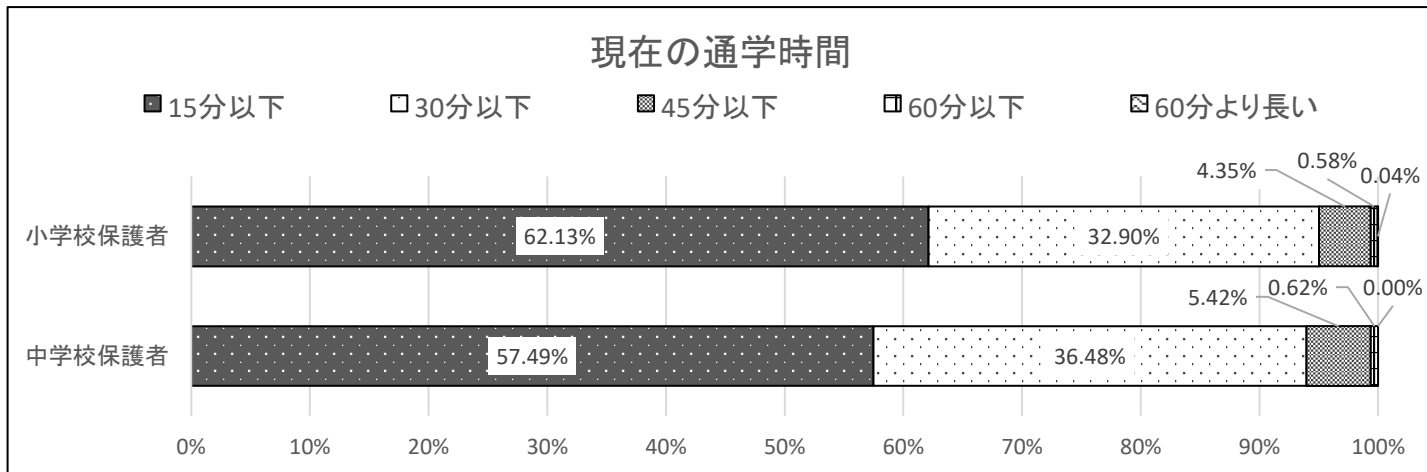
③選択理由(中学校教職員対象)

選択肢「その他(自由記述)」で回答いただいた内容は、「5. 自由記述回答」に記載しています。



(4)設問： お子さんの通学にはおおよそ何分かかっていますか(小・中学校保護者対象)

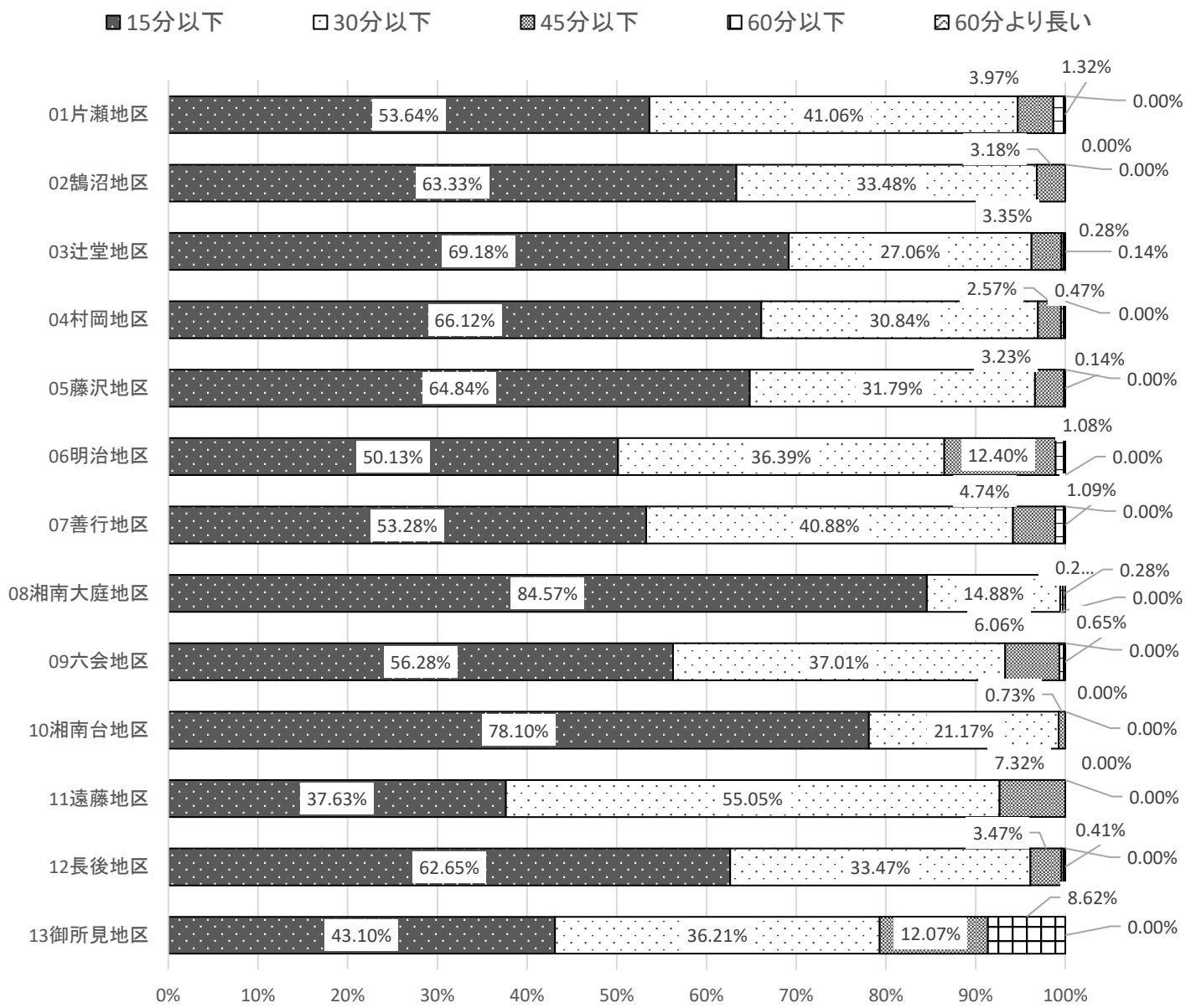
①属性別(小・中学校保護者)



	15分以下	30分以下	45分以下	60分以下	60分より長い	計
小学校保護者	3,210	1,700	225	30	2	5,167
中学校保護者	1,401	889	132	15	0	2,437
計	4,611	2,589	357	45	2	7,604

②地区別（小学校保護者）

小学校 現在の通学時間(地区別(小学校保護者))



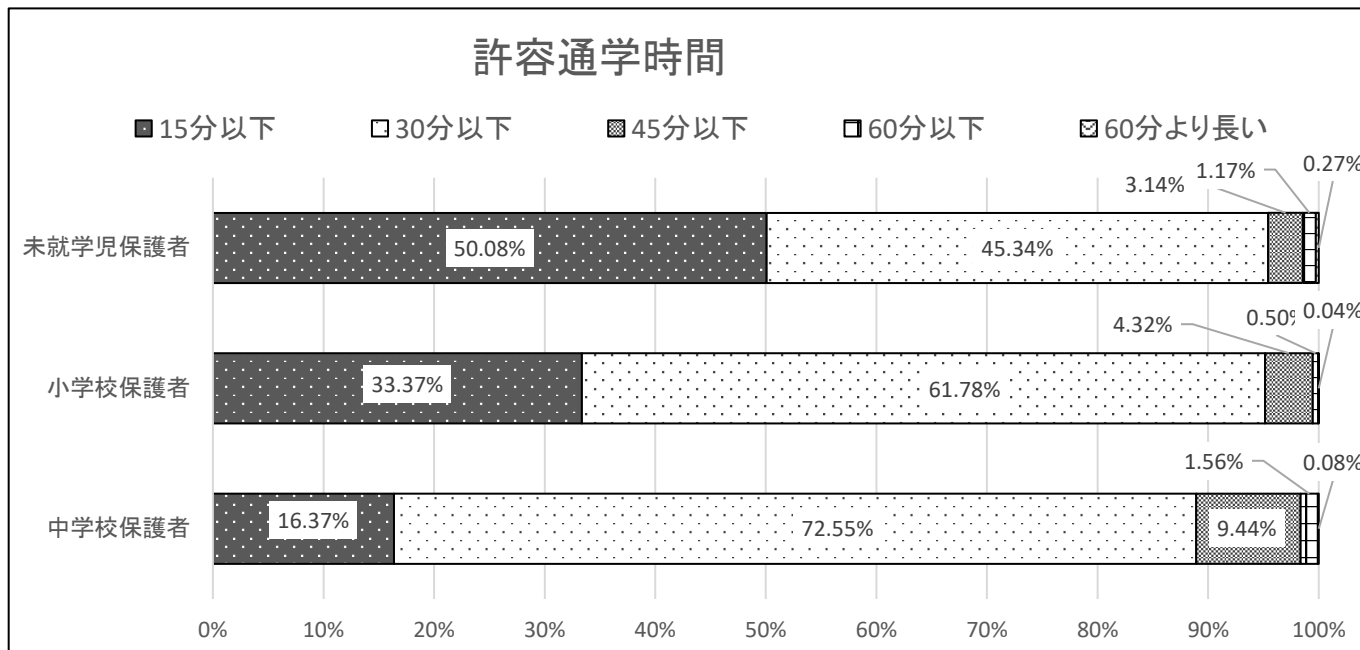
	15分以下	30分以下	45分以下	60分以下	60分より長い	計
01片瀬地区	81	62	6	2	0	151
02鶴沼地区	418	221	21	0	0	660
03辻堂地区	496	194	24	2	1	717
04村岡地区	283	132	11	2	0	428
05藤沢地区	461	226	23	1	0	711
06明治地区	186	135	46	4	0	371
07善行地区	146	112	13	3	0	274
08大庭地区	307	54	0	1	1	363
09六会地区	260	171	28	3	0	462
10湘南台地区	107	29	1	0	0	137
11遠藤地区	108	158	21	0	0	287
12長後地区	307	164	17	2	0	490
13御所見地区	50	42	14	10	0	116
計	3,210	1,700	225	30	2	5,167

グラフ

表

(5)設問: どの程度の時間までが通学時間の可能な範囲だと思いますか？(未就学児・小・中学校保護者対象)

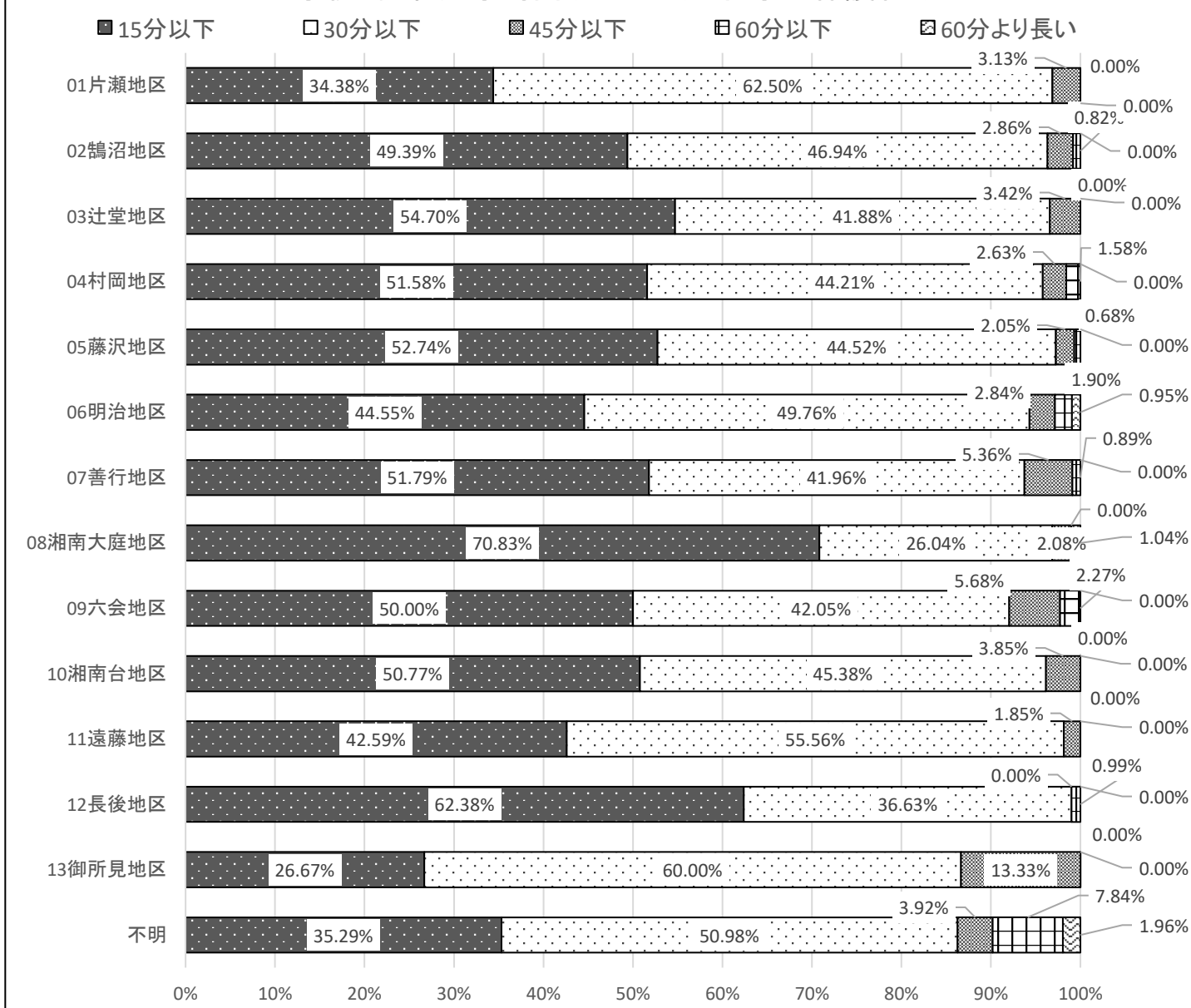
①属性別(未就学児・小・中学校保護者)



	15分以下	30分以下	45分以下	60分以下	60分より長い	計
未就学児保護者	941	852	59	22	5	1,879
小学校保護者	1,724	3,192	223	26	2	5,167
中学校保護者	399	1,768	230	38	2	2,437
計	3,064	5,812	512	86	9	9,483

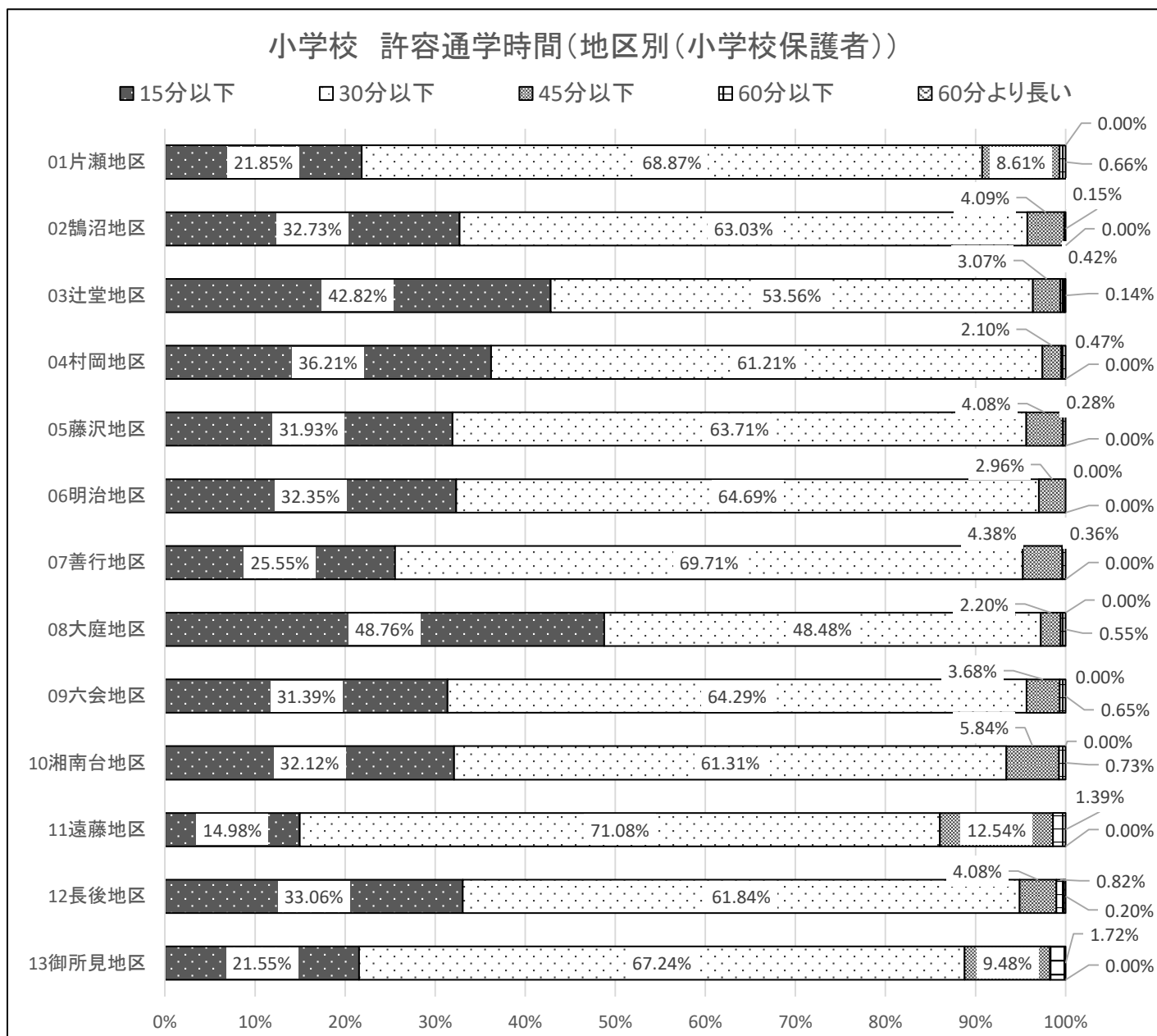
②地区別（未就学児保護者）

小学校 許容通学時間(地区別(未就学児保護者))



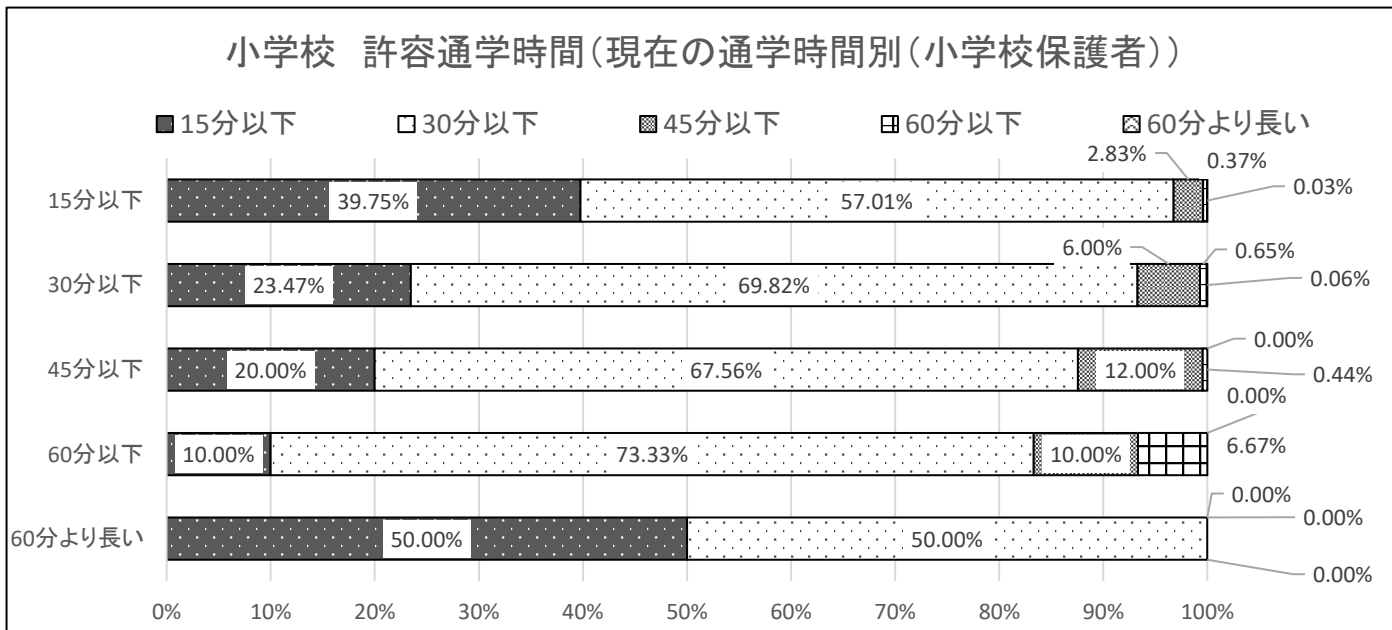
	15分以下	30分以下	45分以下	60分以下	60分より長い	計
01片瀬地区	11	20	1	0	0	32
02鶴沼地区	121	115	7	2	0	245
03辻堂地区	128	98	8	0	0	234
04村岡地区	98	84	5	3	0	190
05藤沢地区	77	65	3	1	0	146
06明治地区	94	105	6	4	2	211
07善行地区	58	47	6	1	0	112
08湘南大庭地区	68	25	2	0	1	96
09六会地区	44	37	5	2	0	88
10湘南台地区	66	59	5	0	0	130
11遠藤地区	69	90	3	0	0	162
12長後地区	63	37	0	1	0	101
13御所見地区	8	18	4	0	0	30
不明	36	52	4	8	2	102
計	941	852	59	22	5	1,879

③地区別（小学校保護者）



	15分以下	30分以下	45分以下	60分以下	60分より長い	計
01片瀬地区	33	104	13	1	0	151
02鶴沼地区	216	416	27	1	0	660
03辻堂地区	307	384	22	3	1	717
04村岡地区	155	262	9	2	0	428
05藤沢地区	227	453	29	2	0	711
06明治地区	120	240	11	0	0	371
07善行地区	70	191	12	1	0	274
08大庭地区	177	176	8	2	0	363
09六会地区	145	297	17	3	0	462
10湘南台地区	44	84	8	1	0	137
11遠藤地区	43	204	36	4	0	287
12長後地区	162	303	20	4	1	490
13御所見地区	25	78	11	2	0	116
計	1,724	3,192	223	26	2	5,167

④現在の通学時間別(小学校保護者)



		許容通学時間					計
		15分以下	30分以下	45分以下	60分以下	60分より長い	
現在の 通学時間	15分以下	1,276	1,830	91	12	1	3,210
	30分以下	399	1,187	102	11	1	1,700
	45分以下	45	152	27	1	0	225
	60分以下	3	22	3	2	0	30
	60分より長い	1	1	0	0	0	2
	計	1,724	3,192	223	26	2	5,167

グラフ

表

グラフ

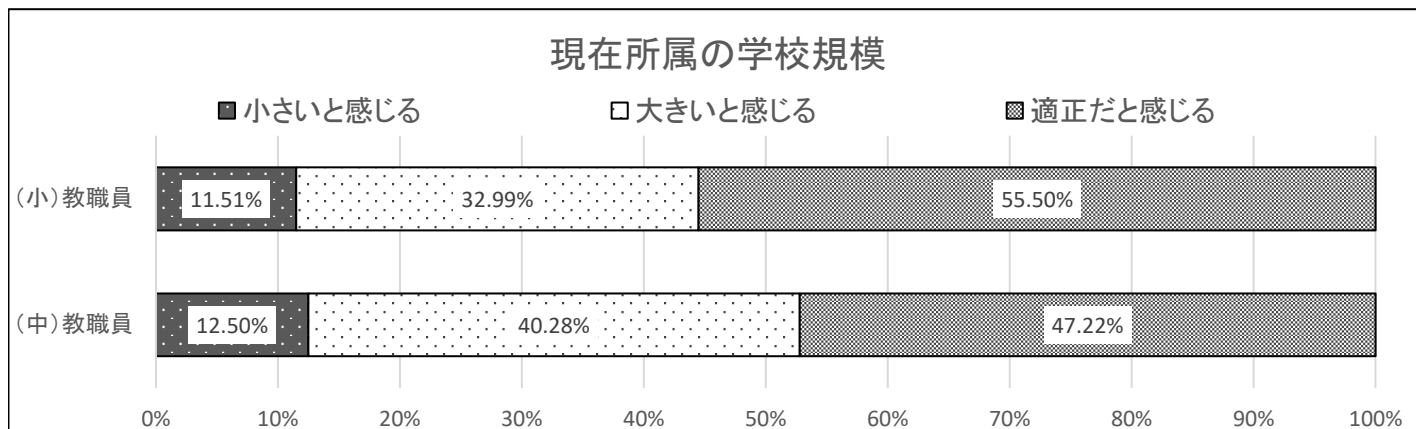
表

4. 教職員のみ対象とした設問

(1) 設問: 現在所属の学校の学級数の規模はどのように感じますか？

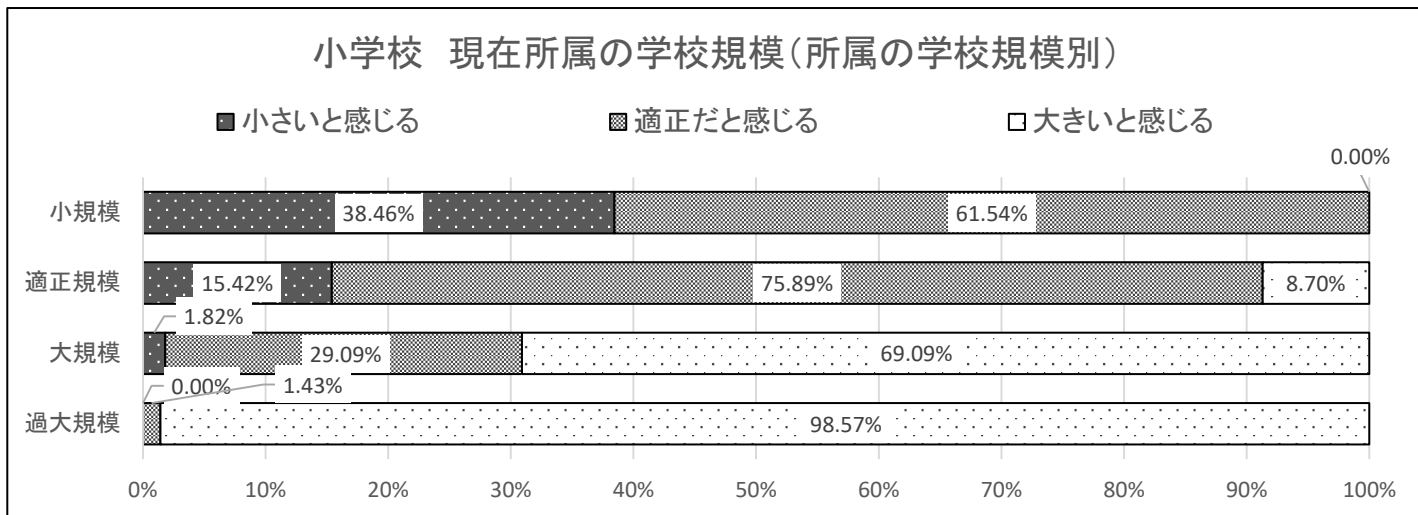
設問「選択した理由(自由記述)」で回答いただいた内容は、「5. 自由記述回答」に記載しています。

① 属性別(小・中学校教職員)



	小さいと感じる	大きいと感じる	適正だと感じる	計
(小)教職員	45	129	217	391
(中)教職員	27	87	102	216
計	72	216	319	607

②所属の学校規模別※(小学校教職員)



	小さいと感じる	適正だと感じる	大きいと感じる	計
小規模	5	8	0	13
適正規模	39	192	22	253
大規模	1	16	38	55
過大規模	0	1	69	70
計	45	217	129	391

※ 学校規模について、藤沢市では以下のように定めています。
 なお、2022年4月1日時点での学級数をもとに算出しております。

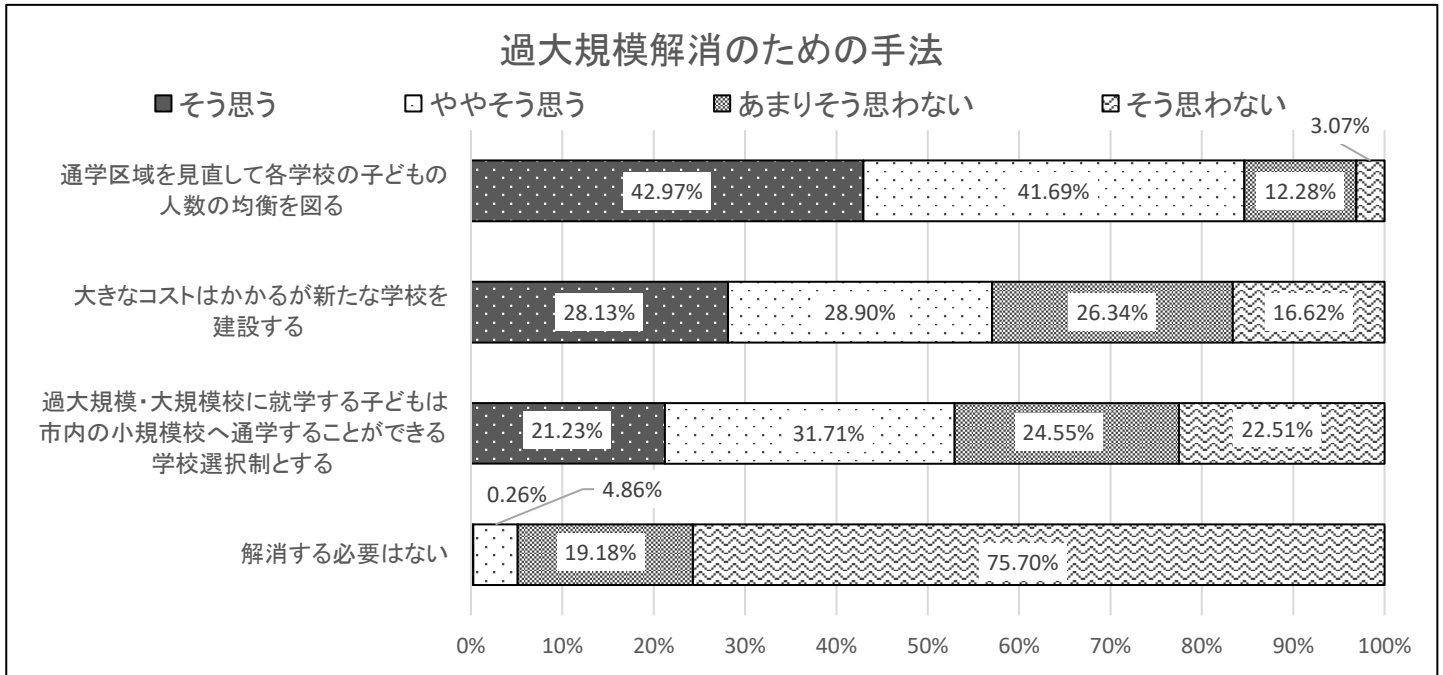
小学校学級数	中学校学級数	状態
1~5学級	1~2学級	過小規模
6~11学級	3~11学級	小規模
12~24学級	12~24学級	適正規模
25~30学級	25~30学級	大規模
31学級~	31学級~	過大規模

グラフ

表

(2)設問: 過大規模解消のための手法はどう思いますか？

①属性別(小学校教職員)



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
通学区域を見直して各学校の子どもの人数の均衡を図る	168	163	48	12	391
大きなコストはかかるが新たな学校を建設する	110	113	103	65	391
過大規模・大規模校に就学する子どもは市内の小規模校へ通学することができる学校選択制とする	83	124	96	88	391
解消する必要はない	1	19	75	296	391

グラフ

表

(3)設問:小規模解消のための手法はどう思いますか？

①属性別(小学校教職員)

グラフ


表

グラフ

表

(4)設問:適正化への取組で重視すべき点は何だと思えますか？

①属性別(小学校教職員)



グラフ



表

グラフ

表

5. 自由記述回答(抜粋)

(1)設問:「藤沢市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」にそって、これからの学校の規模や配置について検討していくうえで、大切だと思うことは何ですか?に寄せられた意見(未就学児・小・中学校保護者、教職員対象)

①未就学児保護者

分類	件数	意見(抜粋)
通学区域	50	家の近くに小学校があるけれど、区域別のため近い方でなく遠い方の小学校へ通うことになるので、自分で近い方の小学校へ通えるように選ばせてほしいと思いました。
		学区にとらわれず、子供にとって近くて通学しやすい学校を選択出来ることが大切だと思います。
		学区境の近辺の住宅に住んでる人は学校を選択できる事
		基本の学区を定めるのは重要だが、家庭により様々な考え方や環境があるので、近隣の学区へ越境することを認めて欲しい。学区の選択制を導入してほしい。
		未就学児と保護者が、学校見学をできる機会を設けていただきたい。規模や雰囲気などを実際に体感し、通学可能な近隣校から選べるようにしていただきたいです。
学校規模	68	学校の規模の違いが、内容の違いにならないようにお願いします。
		1学年3クラスぐらいが理想的。過大規模校の学年7クラスは特別教室、場所の割り当て、行事の制約などがありすぎて、ありえない。早急な対応を求めます。
		1学年5クラス以上は人数が多すぎる。生徒が少ない学校に希望者を通わせる事は可能か?
		プレハブを使った校舎は親的にはよく思いません。
		過大規模小学校に対する縮小対応を求めます。
		学校の敷地の大きさや、校舎の大きさに見合った人数であること(人数が多すぎることは、学校事故防止などの観点からもあまり良くないと思う)
		人数が多すぎると仲が深まることが少ないのではないかと思います。少ないほうが人との関わりが深くなれていいかと思います。
		辻堂小学校です。人数が多いのは賑やかで良いとは思いますが、図工室など特別教室をなくしてしまうほどというのは相応しいとはいえないのでは。近隣の浜見や鵜南は児童数に余裕があるなら、何年後といわず、早急に対応していただきたいです。
通学に関する こと	68	通学時間、安全性は絶対重要です。安心して通わせられるようにして欲しいです。
		ガードレールなどをつけて安全な歩道を作ってほしい
		学区内でも通学に時間がかかる場合は通学バスも検討すれば多少の距離は問題ないと思う。
		時代背景や家庭差の問題もあり難しいとは思いますが、地域ごとに登校班があると心強いな…とは思いますが。子ども同士、親同士の顔も見え、安心感に繋がるかと。
		登下校時に、地域の人の子供達の安全を見守れる環境があると良いと思う。
		踏切を渡らない等、通学路が安全なこと
		歩道がきちんとある。車道との区別がしっかりしている。親の当番性が見送り。
設備	41	運動するのに十分な大きさの校庭があること。
		インターネット環境、IT化の充実
		トイレが洋式・個室で、常に清潔であることが大切だと思います。

		<p>学校に部外者が侵入できないような造りになっている、または、部外者が侵入した場合ただちに阻止・対応できる状態にあること</p> <p>児童の人数に合った敷地の広さ。安全面や運動量の確保の点からも、体育館や校庭を2クラスで使用するののないようにして欲しい。</p> <p>少子化が進んで児童数が少ない地域は、積極的に近隣の小学校と統廃合を行うこと。</p> <p>耐震工事や増築、修整などで子供が在学中に工事で仮校舎で過ごすのは嫌だと思って思います。特に入学卒業のタイミングは悲しく思います。</p>
災害時	5	校舎の建物の耐震性などの災害時の安全面。
教員に関する こと	37	<p>職員の人数が児童に目が行き届く適切な人数であること</p> <p>メンタル面のケアのしやすい環境。担任の先生や保健室以外に相談出来る先生や、相談する時間(面談だと堅苦しいのでラフなもの)を積極的に取るべき。</p> <p>先生を教科別にすること</p> <p>難しいとは思いますが、フリーの先生が充実していると子ども達へのフォローがしやすくなり気持ち的にも荒れにくいのではないかなと思っています。</p>
支援学級	19	<p>各学校の支援級や支援学校を充実させ、受け入れを増やしていただきたいです。</p> <p>支援学級がどの小中にもあってほしい。</p> <p>支援学級の設置が少な過ぎる。うちの区割りの学校には普通級しかないために、遠くの学校まで送っていく生活になる。藤沢市の教育環境は遅れていると強く感じる。</p>
地域	4	<p>登下校時に、地域の人々が子供達の安全を見守れる環境があると良いと思う。</p> <p>1つの学校の人数が増えすぎないこと。地域の人達との交流は感染症がおさまれば、あった方が良いと思う。</p>
その他	99	<p>子供たちがのびのびとした学校生活を送れること</p> <p>学童が利用しやすい料金かつ充実してること</p> <p>公立であれば教育方針の格差がないこと</p> <p>PTAをなくして欲しい</p> <p>学校内に学童を作ってほしい</p> <p>体験授業などの充実</p> <p>朝の開門時間、校舎に入れる時間も、共働きに家庭には重要です。通学時間によっては出勤に影響があるため。</p> <p>特に高学年や児童クラブを利用していない児童の居場所を作ること</p> <p>幼稚園や保育園、学童と同じように電子で出欠や緊急の連絡をとれるようなシステム(アプリなど)を取り入れていくことも大切だと思う</p>

②小・中学校保護者

分類	件数	意見（抜粋）
通学区域	229	住所で区切るのではなく、最も近い学校に通えることが理想かと思います。ただ、児童数など考慮したい点もあるので、複数の選択肢があってもよいかと思います。
		家と学校が線路を挟まないこと。線路を挟むと見守りも困難。学区が複雑すぎる。同じ町内会でも学校が違うのはなぜか疑問。複雑な学区の整理を今一度検討してほしい。
		学区で区切るのではなく、家からの距離も考慮することや、近隣の小学校を選択可能に出来ること
		学校によって生徒数に偏りがあるので、早い段階で学区の変更を見直して欲しい。
		区割りは撤廃するべき、市内であれば、例えばスクールバスを用いても少人数の学校へ通えるとか、区域が違って家から近い学校に自由に選べる制度が必要だと思う。
		小学校から中学にあがる時、出身小学校のバランスが大きく崩れない事
		小学校区を基準に自宅を検討、購入された方も多いためと思います。校区役割を変更されるのでしたら10年単位で前もった告知があるべきだと思います。
		大通りや線路で区割りされた方が安全。
		地域によって学校が選べるというのは不公平感がある気がします。しっかり住所によって通う学校を割り当てて欲しい。
		地域性は学校運営に反映すると思うので、学区は必要だと思う
		辻堂小学校は人数が増えるばかりです。どうか学区を整理してください。今年は図工室を潰してクラスにしたと聞きました。この事態は異常です。
		辻堂小学校を卒業した親から見た今の辻堂小学校はプレハブの校舎もありとても窮屈です。伸びのび学ばせてもらった以前の辻堂小学校に戻していただきたいです。現状子供の人数が多すぎます。学区も広すぎます。早急に別の小学校に振り分ける等の対応をお願いしたいです。
学校規模	252	先生の目が行き届く範囲の人数であること。全員が施設を十分に使える人数であること。
		1学年のクラスは4クラスであること。
		クラスが増えて、教室が足りなくなっており対策してほしいです。
		プール、体育館、理科室、家庭科室などを利用するような、普段と異なる授業や経験を十分させてあげたいと思います。規模が大きいとその割り振りは難しいと思いますが、他校や学外の施設利用などでも良いので、工夫や検討をしていただければと思います。
		休み時間や運動会などグラウンドを制限なく利用できること。
		子どもが多人数を理由に行動を制限される環境は教育上ふさわしくないといます。
		人間関係を考えると、単級は望ましくないといます。
		大きいマンションの建設などは計画の時点から児童数なども考慮して決める等、事前に手を打つことも必要だと思う。
		辻堂小学校に通っています。特別教室が教室になったり行事の行い方、本来他校ならできることができないということに不公平さを感じます。早急に対応していただきたい。
		1学年あたり何クラスあるかよりも、1クラスあたりの人数が少ないことがとても大切だと思う。実体験としてその方が先生の目が行き届いていてとても良いと感じている。子供ものびのびと過ごせているように思う。
		人数が多すぎて特別教室を潰さなければならない状況は異常だと思います。近隣の小規模学校に可能であれば割り振ってほしいです。
		辻堂の海側エリアは建設ラッシュで急激に児童数が増えているので、現状の通学区域や行政区割りの人口を計算して学区を見直して児童数を均等にして欲しい

通学に関する こと	186	実際に通う子どもと保護者が安心して通えるのが理想だと思います。子どもへの負担は少なければ少ない方が良いでしょう。
		PTAの役員の人数を減らし、仕事の内容も見直す必要があると思う。そして、全学年の保護者で安全に登校できるように大きな交差点や車の多い狭い道の見守りをしていく必要があると思う。
		安全な通学路を設定できる事。極端に交通量が多かったり、歩道が狭い道ばかりの通学路は適切ではないと思う。
		何よりも、安全に通学が出来ること。今後学校の統合などで、あまりにも遠距離になる場合は、スクールバスの検討もありかと思えます。
		学区外でも別の学校の方が近いケースがあるので通学時間・距離も大切
		学校毎に登校見守りに格差があるので、危険な通学路は交代制でも見守りがあると良いと思う。
		中学校などで距離がある場合自転車通学できると良いと思う
		通学路に街灯が少ないと感じます。通学路は明るい方が安心します。
		通学路に交番やコンビニ、スーパーなど何かあった場合に助けを求められる場所がある事
		通学路にグリーンベルトの必要性
設備	169	設備や環境が学校によって差が無いこと。
		トイレが清潔であること(特に女子生徒にとっては大きな問題だと思います)
		学校が苦手な子どものために、学校内に、クラス以外にいられる場所、勉強ができる環境があればいいと思います。また、図工室のない小学校生活は、教育の差も生じます。早急に考えていただきたいです。
		学校の空調設備
		学校施設がバリアフリーであること
		校内、建物が天災や事故、犯罪に安全であること
		正門のセキュリティ強化(授業中は施錠して欲しい)
		プレハブ校舎は夏暑くて子供達にはキツイので止めて欲しい。同じ市内でプレハブ校舎を利用する学校とそうでない学校があるのは、同等の学習機会が与えられていないと感じる。
		男子・女子共に専用の更衣室があること
災害時	36	今後の震災、特に地震に備えての安全な校舎、自宅から離れ過ぎない程度の避難可能な距離にある学校。
		災害発生時、想定時間内で避難が可能な経路確保ができるか
		地震などの際に全校生徒が避難できるスペースはあるのか。海や川が近いなら屋上に全校生徒が避難できるのか？緊急引き取りに親がすぐに迎えに行ける距離なのか。兄弟が同じ小学校に通えるのかなど。
教員に関する こと	144	教員の負担軽減のためにも、生徒と先生のバランスは大事だと思います。
		ゆとりのある職員配置
		学校の先生の考えを保護者に伝える事
		教育内容と質が劣化しないこと。教員職の方々が満足に働ける給与などの優遇。
		教員や教員をサポートする職員の充実

		教師の指導力(教科だけでなく総合的な)
		教師の質、アナログからデジタルへの変換。書類などデジタル化してほしい。また、集金などお金を子どもに持たせるのではなく引き落としにしてほしい
		教職員の負担軽減。部活などは外部に委託等。
		場所より規模より何よりも、先生方が子供たちに目をかけられる余裕の持てる環境であってほしいです。それこそ、子供も親も安心して通学することができます。
		問題が起きた際の先生の対応力
支援学級	30	今後増加する支援級の児童のために、支援級やインクルーシブ教育の質、数のUP。
		どの学校でも特別支援学級がある事が当たり前の環境
		発達障害や不登校などに対応出来る、多様なスタイルを取りながら一人一人に合った登校が出来る事。
		支援学級は学区の範囲が広く、自治会と異なる学校へ行くことがあるが、地域で暮らしていくためには同じ自治会内の学校へ行けることが大切だと思う
地域	22	地域の見守り体制。
		学校以外でも大人(親や地域の方)の目が届くこと。(自分の子供に限らず)
		見守りのボランティアを募り、地域全体で子どもたちを見守ることなどがあっても良いかと思う。
		ボランティアさんがほぼ毎日交通誘導をしてくださっていることに大変感謝しています。
その他	340	ランドセルが重すぎるので、臨機応変に学校に置けるようにしてもらえるとありがたい。
		共働き世帯の増加に伴い、PTAでの保護者の負担を軽減し、子どもとの時間を増やすこと。
		学童(児童クラブ)が学校の至近距離にあって欲しい。
		学校、家庭以外の子供の居場所が増えること
		学校に行かなくてはいけないという概念がある事をなくして欲しい
		学校に併設する学童の配置
		中学校でも給食にして欲しいです
		各学校で給仕できる給食室(給食制度)

③教職員

分類	件数	意見（抜粋）
通学区域	37	学区はバランス良く柔軟に変更してもいいのではないかと考えます。
		児童の通学時の安全性は絶対条件だと思う。実際の学校建設が難しいとなると児童の安全面と人数の適正規模の両面を確保するためには、学区の区域変更もそうだが、「市が通学用バスを用意する」が現実的などころのような気がする。いずれ市も人口増のピークが過ぎると児童数が少なくなると考えるとこの案が良いと思う。
		通学時間や通学路時の安全の確保等の課題のクリア、さらに学区の再編成となれば地域を巻き込んでの課題解決となるので大がかりな改革となるが、何とか道筋をもって取り組んでいければと思う。
		学校選択制には反対。児童数・学級数の見通しが立たず、教職員の配置が非正規に偏るのではとの危惧がある。通学の安全もはかれない。ある程度の学区変更(学区選択が出来る地域の縮小など)はやむを得ない。
		現在の学区に落ち着いた頃と比べ、また新たに道路ができたり工場が閉鎖されて住宅になったりと、大きく環境は変わっていると思います。何年かおきに(定期的)安全と共に人数の見直しを図るのは(大変ですが)大切だと思いました。
		数十年に一度は学区を見直しても良いと思いました。 また、学区の端に学校があると子どもたちは通学に苦勞すると思いますが、学校を新設するとコストだけでなく、人的面で厳しいと思いました。
学校規模	68	同じ市内の学校で、学校規模の差が大きすぎることを危惧している。
		コロナ休校明けの分散登校時、児童たちはクラスの人数が少ない方が学習しやすく、意見も出しやすい、というようなことを話していました。ですので、小規模校で今後児童数の減少が見られる場合にも、学級数は変更せず、1クラスあたりの人数を減らして運営することを検討しても良いのではないかと思います。
		過大規模校については、児童の安全、職員の連携など、さまざまな面での課題は深刻であると感じる。早急な対応を希望する。
		過大校については教室や運動場等の割り当てが十分にできていないと思われるため、学校の新造をはじめ、早急に解決したほうがよい。また、今後学校地域によっては児童数の増減見込みが出ていることから、それを見越して統合といった検討を進めていったほうがよいと思う。
		藤沢市の人口が年々増えている今、多くの学校でプレハブを増設したり、空き教室をつぶしたりしてなんとか対応していますが、本当は空き教室は確保したいし、プレハブを増設することで校庭がどんどん狭くなるのは、教育上望ましくないと考えます。市の予算を教育に充ててもらえるならば、学校の新設をしてほしいし、教員の数も確保してほしい。
通学路	14	猛暑日や悪天候での通学を配慮した上で、児童の安全第一に適正化を図れると良い。
		辻堂小の話を聞くと非常に苦勞されている様子が見えます。スクールバスの運営等を視野に入れたことも考える必要もあるのかなと考えています。もちろん簡単な答えではないと思いますので、まずは実践することが大切なのかと考えています。
		徒歩通学しかだめというのではなく、自転車通学も可とする必要があるかと思います。
設備	13	クラス数が適正であっても児童が男女分かれて着替える教室やクールダウンする部屋やとりだして指導するフリールームや特別教室をつぶさなければならぬほどゆとりがないのは問題だと考えます。併せて学校施設の充実はかせないと思います。
		老朽化の学校の改装、修繕の中で教室の数の確保等も検討できるとありがたい。

災害時	2	老朽化も同じくらい切実な問題だと思し災害時に生徒を守れなかったら意味がないと思うので、両方の視点から検討して頂けるとありがたいと思います。
教員に関すること	30	子どもの数(クラス数)とともに、教職員の配置数にも配慮する必要がある。
		一人ひとりを丁寧に見ていくためには、教員の人数を増やすしかないと思います
		適正化もすべきであるが、なによりもまずは教職員の働き方の改善、業務削減が急務である。それが叶わないままだと、適正化がスムーズにおこなえない。
支援学級	1	特別支援学級のニーズは年々高まっている。各校配置は急務であろう。支援級の規模についても検討することも大切だと思います。
地域	3	学校適正化は今後の大きな課題ではあるが、適正化を図るためには地域の状況も鑑みて行わなければならないと思う。
その他	25	保護者の理解協力を得るのが最も大きな課題になるため、納得してもらえるような説明や機会が重要と思われる。
		期間限定の分校を作るなど、過大規模校への対策は急いで欲しいです。
		大きな問題なので、計画ができた段階で、早めの市民への周知が求められる。

(2)設問:現在所属の学校の学級数の規模はどのように感じますか?に寄せられた意見(教職員対象)

①小学校教職員

分類	件数	意見(抜粋)
小さいと感じる	20	人数が多すぎず、一人一人に丁寧に関わることができるが、職員の数が少なすぎる。
		各学年2クラスしかなく、クラス替えの課題が解決できない。職員数が少なく、負担が大きい。ただ、コロナ禍においては、利点が多い。
		学年のクラス数が少ないため、職員の協力体制が築きにくく、業務の負担も大きい児童の人間関係が固定化してしまう傾向がある
大きいと感じる	99	校庭や特別教室の割り当てが必要十分な時間数配当できていない状況で、学習に支障がおきている
		運動会や遠足・社会見学などが実施しにくい
		校庭のみならず校舎内も含め学校全体で接触など事故の心配が多い
		児童数に比例して特別支援学級設置のニーズも高いのにも関わらず、設置できるスペースがなくて実現できていない
		職員間の連携に漏れが出たり、「誰かがやるだろう」「なんとかなるだろう」など責任の所在があいまいになったりする
		余裕教室がなく、次にクラス増になれば、特別教室を教室にあてるしかない
適正だと感じる	30	人数把握がしやすい。学習活動が活発に行われる。
		各学年100人以内くらいなので、学年担当教員が児童全員をほぼ確認でき、指導・支援が行き届く規模である。校外学習でも、1回で受け入れてもらえる人数である。
		職員間、学年間の情報共有もしやすいため。

②中学校教職員

分類	件数	意見（抜粋）
小さいと感じる	10	生徒の人数が少なく、学校行事がこじんまりとして終わってしまう。
		ひとつの部活動に所属する部員の数少なく、活動しにくい。
		職員数が少ないため分掌の負担が大きく、長時間労働の原因になっている。
大きいと感じる	62	人数が多く全ての生徒へ適切な対応ができない。同じ学年に所属しているのに3年間全くかわらない生徒もいる。
		1学年8学級でもやっていけなくはないが、人数が多いぶん生徒一人一人への手厚い支援・指導ができない。技術科や家庭科の教員は各学校に一人しかいないので、授業数が多い上に、生徒の顔と名前がなかなか覚えられない。
		教室に余裕がない・昼休みのグラウンドが危ない
		現在一学年7クラス。これ以上は厳しいと感じる。最も不便を感じるのは、校舎内に、相談室が存在しない点。各種指導時、場所がなく、適切な指導が十分に行えていない。
適正だと感じる	18	学年すべてのクラスの授業を受け持つことができる。
		教科にもよるが、学年の授業をすべて受け持てるので、学年の生徒の様子を把握しやすい。授業において、特別教室が利用しやすい。
		職員のコミュニケーションがとれやすい職員数だと思います。

(3)設問:小学校/中学校は1学年あたり何学級だとちょうど良いと思いますか?に寄せられた意見(教職員対象)

①小学校教職員

意見(抜粋)
子供たちへの制限が多いので、それが解消される。
刺激が少なく、児童の落ち着いた学習環境の整備につながる
校外学習のときには、100人を超えると見学ができない施設も多い。また、100人くらいの人数が動きやすい。
児童一人ひとりに寄り添いやすい、児童の安全が確保しやすい。
学級数よりも児童数の方が大切だと思います。学級数がよくても児童数が多ければこれらの理由は当てはまりません
学年や職員全体での合意形成がしやすい。課題の発見から解決までのステップが迅速である。

②中学校教職員

意見(抜粋)
規模に応じて教職員の数が多くなるため、分掌においてそれぞれが担う仕事量が小規模校より少なくなるため
学年を一人の教員で教えることができるため評価等が行いやすい
業務の軽減につながり、働き方改革につながる
教員の持ち時間数が、複数名でシェアしやすい。

6. 考察

(1) これからの学校の規模や配置について検討していくうえで、大切だと思うことについて

未就学児・小・中保護者を対象に、次の7項目について、それぞれ、「大切だと思う」・「やや大切だと思う」・「あまり大切だと思わない」・「大切だと思わない」の4段階評価で回答してもらいました。

- ① 自宅からの通学距離・通学にかかる時間
- ② 通学路が安全であること
- ③ クラス替えができる程度の児童生徒がいること
- ④ 図工室や音楽室などの特別教室が充実していること
- ⑤ 地域の人たちと交流ができること
- ⑥ 自治会・町内会ごとに通学区域が設定されていること
- ⑦ 通学区域が13地区の行政区割りの地区内にあること

その結果、②「通学路が安全であること」について、「大切だと思う」または「やや大切だと思う」と回答した人が、未就学児保護者：99.5%、小学校保護者：99.5%、中学校保護者：99.6%と最も割合が高く、次いで、①「自宅からの通学距離・通学にかかる時間」が未就学児保護者：95.59%、小学校保護者：96.19%、中学校保護者：96.39%でした。

基本方針において、通学区域設定に当たっての配慮事項の一つとして、「通学距離(時間)、通学の安全性を考慮する」と記載しておりますが、今回の調査から、保護者においても、当該項目について特に大切に感じていることがわかりました。

(2) 理想の学級数について

小学校の1学年あたりの理想の学級数について、「3学級」または「4学級」(1校あたりに換算すると、18学級～24学級)の回答割合が高く、両選択肢合わせると、未就学児保護者：86.85%、小学校保護者：89.65%、小学校教職員：94.12%でした。

中学校の1学年あたりの理想の学級数について、「4学級」または「5～6学級」(1校あたりに換算すると、12学級～18学級)の回答割合が高く、中学校保護者：79.81%、中学校教職員：93.52%でした。

基本方針において、本市における学校規模の基準を定めており、小・中学校ともに1校あたり12学級～24学級を「適正規模」としています。

アンケート調査結果から、すべての属性で「適正規模」の学校を理想としている人の割合が高いということがわかりました。

(3) 通学時間について

許容通学時間について、未就学児保護者は15分以下が50.08%と最も割合が高い結果となりました。小学校保護者は30分以下が61.78%と最も割合が高く、中学校保護者についても、30分以下が72.55%と最も割合が高い結果となりました。

さらに、小学校の現在の通学時間別の許容通学時間では、現在の通学時間：15分以下と

回答した人のうち、許容通学時間:30分と回答した人が、57.01%と最も割合が高く、中学校の現在の通学時間別の許容通学時間においても、現在の通学時間:15分以下と回答した人うち、許容通学時間:30分と回答した人が、70.24%と最も割合が高い結果となりました。

このことから、現在の通学時間よりも長い通学時間でも、30分以内であれば許容できると考えている保護者が半数以上いるということがわかりました。

(4) 過大規模・小規模解消のための手法について

教職員を対象に、過大規模解消のための手法について、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「通学区域を見直して各学校の子どもの人数の均衡を図る」で、小学校教職員:84.66%、中学校教職員:83.33%でした。

次に、小大規模解消のための手法についても、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目が「通学区域を見直して各学校の子どもの人数の均衡を図る」で、小学校教職員:79.54%、中学校教職員:80.55%でした。

また、過大規模・小規模解消の設問においてどちらも、8割以上の小・中教職員が「解消する必要はない」という項目に対し、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答しており、多くの教職員が過大規模・小規模の解消を図る必要があると認識していることがわかりました。

今後、基本方針をもとに、適正規模・適正配置の実現に向けた通学区域の見直しや学校の統合など、具体的な手法や学校名を明記した「藤沢市立学校適正規模・適正配置実施計画」の策定に向けて検討してまいります。

本アンケート調査結果については、実施計画について検討する際の基礎資料として活用いたします。

参考資料

未就学児保護者向け依頼文・質問紙

小・中学校保護者向け依頼文・質問紙

小・中学校教職員向け依頼文・質問紙

2022年（令和4年）9月1日

保護者各位

藤沢市教育委員会
教育総務課長

これからの学校のあり方についてのアンケート調査のご協力をお願い

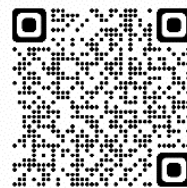
全国的には少子化が進んでいますが、藤沢市では今後、児童生徒数が減少する地域がある一方で、一部の地域では今後も児童生徒数の増加が予測され、学校の規模も31学級数を超える過大規模が解消されない学校があるなど、市内の地域によって状況が異なることが予測されています。

また、学校施設においては、築後40年以上経過した校舎棟を保有する学校が市内55校中、40校あり、中でも築後50年以上の学校は21校で、老朽化が著しい状況となっています。

こうしたことから、これからの時代に求められる教育内容を勘案しつつ、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化対策などの視点を踏まえ、財政負担の軽減を図るための視点も含めて学校規模の適正化への対応を図り、子どもたちの教育環境の改善に取り組んでいくうえでの基本的な考え方となる「藤沢市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」を2022年（令和4年）3月に策定したところです。

基本方針はこちらからご覧いただけます。

<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kyouiku/tekiseihoshin.html>



今後、この基本方針にそって、藤沢市立学校の適正規模・適正配置の実現に向けた通学区域の見直しや学校の統合など、具体的な手法や学校名を明記した、これからの藤沢市立小中学校の学校施設の適正規模・適正配置についての実施計画を策定するにあたり、今後、小学校に進学されるお子様の保護者の方のご意見を基礎資料としたいので、本アンケートへのご協力をお願いします。

回答はすべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

1 回答方法

お名前は回答いただく必要はありません。

**★アンケートフォームはこちらから
アクセスしてください。**

<https://forms.gle/DzeYgcobtRCmu4x3A>



2 回答期間

このお知らせを受け取られてから 2022 年（令和 4 年）9 月 16 日（金）まで

3 学校適正規模・適正配置担当ホームページのご案内

藤沢市の学校適正規模・適正配置に関する取組についてはホームページをご覧ください。

検索 🔍 藤沢市 適正取組

本アンケートの問い合わせ先

**藤沢市教育委員会 教育総務課
学校適正規模・適正配置担当**

TEL 0466-50-3556（直通）

fj-kyouiku@city.fujisawa.lg.jp

アンケート本編

これからの学校のあり方についてのアンケートへのご協力をお願いします。

1. ご自宅の郵便番号を入力してください。
2. どの程度の時間までが小学校までの通学時間の可能な範囲だと思いますか？
 - (1) 15 分以下
 - (2) 30 分以下
 - (3) 45 分以下
 - (4) 60 分以下
 - (5) 60 分より長い
3. 「藤沢市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」にそって、これからの学校の規模や配置について検討をしていくうえで、大切だと思うことは何ですか？
 - 4 段階評価（大切だと思う/やや大切だと思う/あまり大切だと思わない/大切だと思わない）
 - (1) 自宅からの通学距離・通学にかかる時間
 - (2) 通学路が安全であること
 - (3) クラス替えができる程度の児童生徒がいること
 - (4) 図工室や音楽室などの特別教室が充実していること
 - (5) 地域の人たちと交流ができること
 - (6) 自治会・町内会ごとに通学区域が設定されていること
 - (7) 通学区域が藤沢市の 13 地区*の行政区割りの地区内にあること

※13 地区＝六会・片瀬・明治・御所見・遠藤・長後・辻堂・善行・湘南大庭・湘南台・鵜沼・藤沢・村岡地区

 - (8) 上記 (1) ～ (7) 以外に大切だと思うことがあればご記入ください。

4. あなたは小学校は1学年あたり、何クラスが理想だと思いますか？（選択）

(1) 1クラス

(2) 2クラス

(3) 3クラス

(4) 4クラス

(5) 5クラス以上

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

2022年（令和4年）9月1日

保護者各位

藤沢市教育委員会
教育総務課長

これからの学校のあり方についてのアンケート調査のご協力をお願い

全国的には少子化が進んでいますが、藤沢市では今後、児童生徒数が減少する地域がある一方で、一部の地域では今後も児童生徒数の増加が予測され、学校の規模も31学級数を超える過大規模が解消されない学校があるなど、市内の地域によって状況が異なることが予測されています。

また、学校施設においては、築後40年以上経過した校舎棟を保有する学校が市内55校中、40校あり、中でも築後50年以上の学校は21校で、老朽化が著しい状況となっています。

こうしたことから、これからの時代に求められる教育内容を勘案しつつ、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化対策などの視点を踏まえ、財政負担の軽減を図るための視点も含めて学校規模の適正化への対応を図り、子どもたちの教育環境の改善に取り組んでいくうえでの基本的な考え方となる「藤沢市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」を2022年（令和4年）3月に策定したところです。

基本方針はこちらの2次元コードからご覧いただけます。



今後、この基本方針にそって、藤沢市立学校の適正規模・適正配置の実現に向けた通学区域の見直しや学校の統合など、具体的な手法や学校名を明記した、これからの藤沢市立小中学校の学校施設の適正規模・適正配置についての実施計画を策定するにあたり、保護者の方のご意見を基礎資料としたいので、本アンケートへのご協力をお願いします。

回答はすべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

1 回答方法

お名前は回答いただく必要はありません。

**★アンケートフォームはこちらの 2 次元
コードを読み込みアクセスしてください。**

なお、白浜養護学校については学校規模の考え方が異なるため、このアンケートの対象とはなりません。



2 回答期間

このお知らせを受け取られてから 2022 年（令和 4 年）9 月 16 日（金）まで

3 学校適正規模・適正配置担当ホームページのご案内

藤沢市の学校適正規模・適正配置に関する取組についてはホームページをご覧ください。

検索

本アンケートの問い合わせ先

藤沢市教育委員会 教育総務課
学校適正規模・適正配置担当

TEL 0466-50-3556（直通）

fj-kyouiku@city.fujisawa.lg.jp

アンケート本編

これからの学校のあり方についてのアンケートへのご協力をお願いします。

1. ご自宅の郵便番号を入力してください。
2. お子さんが通っている学校は小学校/中学校/小学校+中学校（プルダウン）
3. お子さんが通っている学校名（複数選択可）
4. お子さんの学年（複数選択可）
5. お子さんの通学にはおおよそ何分かかっていますか？（小中学校両方の家庭はそれぞれ）
 - (1) 15 分以下
 - (2) 30 分以下
 - (3) 45 分以下
 - (4) 60 分以下
 - (5) 60 分より長い
6. どの程度の時間までが通学時間の可能な範囲だと思いますか？（小中学校両方の家庭はそれぞれ）
 - (1) 15 分以下
 - (2) 30 分以下
 - (3) 45 分以下
 - (4) 60 分以下
 - (5) 60 分より長い

7. 「藤沢市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」にそって、これからの学校の規模や配置について検討をしていくうえで、大切だと思うことは何ですか？

4 段階評価（大切だと思う/やや大切だと思う/あまり大切だと思わない/大切だと思わない）

- (1) 自宅からの通学距離・通学にかかる時間
- (2) 通学路が安全であること
- (3) クラス替えができる程度の児童生徒がいること
- (4) 図工室や音楽室などの特別教室が充実していること
- (5) 地域の人たちと交流ができること
- (6) 自治会・町内会ごとに通学区域が設定されていること
- (7) 通学区域が藤沢市の13地区*の行政区割りの地区内にあること
※13地区＝六会・片瀬・明治・御所見・遠藤・長後・辻堂・善行・湘南大庭・湘南台・鶴沼・藤沢・村岡地区
- (8) 上記(1)～(7)以外に大切だと思うことがあればご記入ください。

8. あなたは小学校または中学校は1学年あたり、何クラスが理想だと思いますか？（選択）

【小学校】

- (1) 1クラス
- (2) 2クラス
- (3) 3クラス
- (4) 4クラス
- (5) 5クラス以上

【中学校】

- (1) 1～2クラス
- (2) 3クラス
- (3) 4クラス
- (4) 5～6クラス
- (5) 7～8クラス
- (6) 9クラス以上

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

2022年9月1日

学校長

教育総務課長

藤沢市立学校の適正規模・適正配置に関する
アンケート調査のご協力をお願い

全国的には少子化が進んでいますが、藤沢市では今後、児童生徒数が減少する地域がある一方で、一部の地域では今後も児童生徒数の増加が予測され、学校の規模も31学級数を超える過大規模が解消されない学校があるなど、市内の地域によって状況が異なることが予測されています。

また、学校施設においては、築後40年以上経過した校舎棟を保有する学校が40校あり、中でも築後50年以上の学校は21校で、老朽化が著しい状況となっています。

こうしたことから、これからの時代に求められる教育内容を勘案しつつ、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化対策などの視点を踏まえ、財政負担の軽減を図るための視点も含めて学校規模の適正化への対応を図り、子どもたちの教育環境の改善に取り組んでいくうえでの基本的な考え方となる「藤沢市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」を2022年（令和4年）3月に策定したところです。

基本方針はこちらのリンクまたは2次元コードからご覧いただけます。

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kyouiku/tekiseihoshin.html>



今後、この基本方針にそって、藤沢市立学校の適正規模・適正配置の実現に向けた通学区域の見直しや学校の統合など、具体的な手法や学校名を明記した、これからの藤沢市立小中学校の学校施設の適正規模・適正配置についての実実施計画を策定するにあたり、学校長及び教職員のご意見を基礎資料としたいので、本アンケートへのご協力をお願いします。

回答はすべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

1 学校規模について

藤沢市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針において、藤沢市では「小学校・中学校ともに1校あたり12学級以上24学級以下」（小学校：1学年当たり2～4学級、中学校：1学年当たり4～8学級）を「学校の適正規模」と定めています。

<学校規模の目安>

小学校学級数	中学校学級数	状態
1～5学級	1～2学級	過小規模
6～11学級	3～11学級	小規模
12～24学級	12～24学級	適正規模
25～30学級	25～30学級	大規模
31学級～	31学級～	過大規模

※藤沢市における「適正規模」以外の学校については、それぞれの規模に応じた教育活動を展開していることから、これらの学校規模が「不適正」ということではありません。

2 調査対象者 学校教職員（管理職含む）

3 回答方法

こちらの2次元コードを読み込む、またはURLのリンクから、Googleアンケートにより直接入力し、ご回答ください。

本アンケートは無記名アンケートです。ご回答は任意ですが、ご協力をお願いいたします。

<https://forms.gle/UGv13KUmHj2v2Gsv9>



4 回答期限

本日から2022年9月16日（金）まで

本アンケートの問い合わせ先

藤沢市教育委員会 教育総務課 学校適正規模・適正配置担当
TEL 内線 5113
0466-50-3556（直通）
fj-kyouiku@city.fujisawa.lg.jp

アンケート本編

1. 学校の別（小/中）※白浜はアンケート対象外とする
2. 学校名（プルダウン）
3. 現在所属の学校の学級数の規模はどのように感じますか？（選択）
 - (1) 小さいと感じる
 - (2) 適正だと感じる
 - (3) 大きいと感じる
4. 3の理由あれば自由記述（例：人数が多く校庭の利用に制約をかけざるを得ない）
5. 小学校/中学校（各属性に応じて）は1学年あたり何学級だとちょうど良いと思いますか？（選択）

【小学校】

 - (1) 1学級
 - (2) 2学級
 - (3) 3学級
 - (4) 4学級
 - (5) 5学級以上

【中学校】

 - (1) 1～2学級
 - (2) 3学級
 - (3) 4学級
 - (4) 5～6学級
 - (5) 7～8学級
 - (6) 9学級以上
6. 5の理由（複数選択）
 - (1) 行き届いた指導がしやすい
 - (2) 学校施設・教材等が利用しやすい
 - (3) 学校全体としてまとまりやすい
 - (4) 学校行事等が運営しやすい
 - (5) クラス替えなどにより社会性が身に付きやすい
 - (6) 教員相互の連携が図りやすい
 - (7) 人間関係が深まりやすい
 - (8) 児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい
 - (9) その他（自由記述）

7. 過大規模校解消のための手法はどう思いますか？（４段階評価）
 - (1) 通学区域を見直して各学校の子どもの人数の均衡を図る
 - (2) 大きなコストはかかるが新たな学校を建設する
 - (3) 過大規模・大規模校に就学する子どもは市内の小規模校へ通学することができる学校選択制とする
 - (4) 解消する必要はない
8. 小規模校の解消のための手法はどう思いますか？（４段階評価）
 - (1) 通学区域を見直して各学校の子どもの人数の均衡を図る
 - (2) 小規模の学校は統合して適正な規模とする
 - (3) 解消する必要はない
9. 適正化への取組で重視すべき点は何だと思えますか？（複数選択）
 - (1) 通学時の安全性の確保
 - (2) 児童生徒数や学級数の多い・少ない
 - (3) 学校と地域のつながり
 - (4) 学校施設等の充実
 - (5) 通学距離を考慮する
10. 適正化へのご意見（自由記述）

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。